

幸畑（10）遺跡
幸畑（6）遺跡
幸畑（3）遺跡

— 県道尾駁有戸停車場線改良事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1997年3月

青森県教育委員会

序

青森県教育委員会は、県道尾駸有戸停車場線改良事業に伴い、工事予定地内に所在する六ヶ所村幸畑(10)・幸畑(6)・幸畑(3)遺跡の記録保存を図るため、平成7年度に発掘調査を実施しました。

今回の調査により、縄文時代の遺構や遺物が発見されました。

本報告書は、この発掘調査の成果をまとめたものであり、いささかでも今後の文化財の保護及び活用に資するところがあれば幸いに存じます。最後になりましたが、調査の実施と報告書の作成にあたり関係各位から御協力、御指導を賜りましたことに対して、心から感謝の意を表します。

平成9年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

例 言

- 1 本報告書は、平成7年度に県道尾越有戸停車場線改良事業に伴い実施した、六ヶ所村幸畑(10)・(6)・(3)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 これらの遺跡は、平成4年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』にそれぞれ遺跡番号50122・50037・50034として登録されている。
- 3 執筆者の氏名は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記してある。
- 4 資料の分析、鑑定については、下記の方に依頼した(敬称略)。
火山灰の蛍光X線分析 奈良教育大学教授 三辻 利一
石器の石質鑑定 青森県立板柳高等学校教諭 山口 義伸
- 5 本書に掲載した地形図(遺跡の位置)は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を複写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。なお、遺物写真の縮尺は図ごとに倍率を記した。
- 7 遺構・遺物の文、図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。
(1)遺構内外の堆積土の注記は、『新版標準土色帖』(小山正忠、竹原秀雄 1993)を用いた。
(2)図中で使用したスクリーン・トーンの表示は次のとおりである。



地 山

No.204



焼 土

No.320



粘 土

No.112



ス リ

No.112



タ タ キ

No.320



凹 み

No.328

- 8 参考文献については、本文末に収めた。文中に引用した文献については、著者名・編集機関と西暦年で示した。
- 9 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関と個人から御教授、御指導をいただいた(順不同、敬称略)。
瀬川 滋、北林八洲晴、三宅徹也、田中寿明、長尾正義、天間勝也、遠藤正夫、新岡 巖
内海 剛、田村俊之、千田和文

目 次

序	
例言	
目次	
第1章 発掘調査の概要	1
第1節 調査要項	1
第2節 調査方法	2
第3節 調査の経過	3
第4節 遺跡の立地と基本層序	5
第2章 幸畑(10)遺跡	9
1 土器	9
2 石器	9
第3章 幸畑(6)遺跡	12
第1節 検出遺構	12
第2節 遺構外出土遺物	16
1 土器	16
2 石器	17
第4章 幸畑(3)遺跡	20
第1節 検出遺構と出土遺物	20
1 竪穴遺構	20
2 土坑	24
3 溝状ピット	26
第2節 遺構外出土遺物	27
1 土器	27
2 石器	41
第5章 自然科学的分析	76
火山灰の蛍光X線分析	76
第6章 まとめ	78
参考文献	79
写真図版	80
抄録	95

第1章 調査の概要

第1節 調査要項

1 調査目的

県道尾敷有戸停車場線改良事業の実施に先立ち、当該地区に所在する六ヶ所村幸畑(10)・(6)・(3)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の活用に資する。

- | | | |
|---|----------|---|
| 2 | 発掘調査期間 | 平成7年5月9日から同年10月20日まで
(当初予定、11月1日まで) |
| 3 | 遺跡名及び所在地 | 幸畑(10)遺跡 (遺跡番号 50122)
上北郡六ヶ所村大字鷹架字道ノ下817、外

幸畑(6)遺跡 (遺跡番号 50037)
上北郡六ヶ所村大字鷹架字道ノ下842、外

幸畑(3)遺跡 (遺跡番号 50034)
上北郡六ヶ所村大字鷹架字道ノ下873、外 |
| 4 | 発掘調査面積 | 10,000平方メートル |
| 5 | 調査委託者 | 青森県土木部 |
| 6 | 調査受託者 | 青森県教育委員会 |
| 7 | 調査担当機関 | 青森県埋蔵文化財調査センター |
| 8 | 調査協力機関 | 六ヶ所村、六ヶ所村教育委員会、上北教育事務所 |
| 9 | 調査参加者 | |
| | 調査指導員 | 村越 潔 青森大学教授(考古学) |
| | 調査協力員 | 橋本 寿 六ヶ所村教育委員会教育長 |
| | 調査員 | 小山 陽造 八戸工業高等専門学校教授(分析科学) |
| | | 天間 勝也 東北町立清水目小学校校長(考古学) |
| | | 佐々木辰雄 青森県立八戸南高等学校教諭(地質学) |

調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター		
調査第四課長	大湯 卓二	(現、調査第三課長)	
総括主査	白鳥 文雄	(現、主幹)	
主 事	平山 明寿		
調査補助員	鈴木 義智、柴田 君仁、工藤 圭子、高田 麻紀子		

第2節 調査方法

今回の調査は、3遺跡を対象としたが、これらの立地する台地自体がほとんど地続きであり、また各遺跡の範囲が明確でないことなどから、遺跡範囲にとらわれずに予定路線内の全面を対象とすることとした。調査は試掘を先行させ、遺構及び遺物が確認された範囲を適宜拡張し、精査することとした。

また、委託者側からの要望により、予定路線の起点側(北西端)から終点側(南東端)に向かい調査を行うこととなった。調査予定範囲は、幸畑(3)遺跡の東端部(道路中心杭No101)までである。

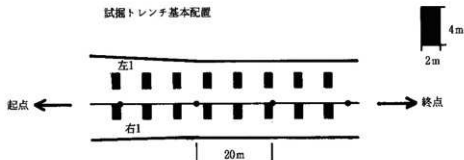
試掘トレンチは、道路建設用の中心杭を基準として、6m間隔に2m×4mのトレンチを2列設定した。立木及び地形によっては位置及び大きさを適宜変更した。試掘トレンチの呼称は、中心杭の基点寄りの番号を用い、終点側に向かって左右の何列目を示すこととした。(例、No10-右(左)3)また、拡張部分は、中心杭2点を結ぶ線を基準として、適宜4m×4mのグリッドを設定した。また、最寄りの工事用測量原点から標高原点を移動した。

検出遺構は、確認順に番号を付し、精査にあたっては、遺構内の堆積土の状況を観察するためベルトを残して層ごとに掘り下げた。各層には算用数字を付して呼称した。また、遺構の実測はグリッド軸線を基準にして、水準による簡易測り方実測を行った。実測の縮尺は20分の1を基本とした。

記録保存のために、適宜写真撮影を行った。フィルムは35mmのモノクロームとカラーリバーサルの2種類を用いた。

出土遺物の取り上げは、各遺跡単位に、遺構内出土のものは遺構ごとに、遺構外出土のものはトレンチごとまたはグリッドごとに取り上げた。遺跡の登録範囲外のものについては、トレンチごとに取り上げた。取り上げに際しては、色分けしたカード(土器-白、石器-青、その他-赤)に出土位置及び出土層位など明記した。

(白鳥 文雄)



第3節 調査の経過

平成7年5月9日、調査資材を搬入し、幸畑(10)遺跡の発掘調査を開始した。調査は調査区内の草刈りから始め、これと併行して試掘坑の設定を行った。調査は路線予定地基点側の北西端から開始した。

6月6日、調査関係機関及び調査員が集り、六ヶ所村中央公民館において調査打ち合わせ会議を開催した。調査実施計画・方針等について質疑応答の後、現地を踏査するとともに調査員から現地指導を受けた。

6月中旬、幸畑(10)遺跡と幸畑(6)遺跡に挟まれた調査区から溝状ピットが2基検出された。これの精査後、遺構の分布範囲を確認するため表土剥ぎに重機を導入して粗掘を行い、周辺を拡張したが、他に遺構は検出されなかった。

また、幸畑(6)遺跡からも溝状ピットが検出された。同じように周辺の遺構確認を行ったところ、新たに溝状ピットが1基検出された。

7月上旬、幸畑(6)遺跡の中央に位置する谷の北側までの調査に見通しが立った。調査区域の移動に伴い、7月19日、プレハブを移設した。谷の部分は斜面に繁茂する木の伐採が困難であり、また、下には村道があることから、土砂の崩落等の危険回避のため、道路建設用中心杭No48～55までは谷斜面の露頭面及び崩落土の調査にとどめた。

調査は順調に進み、8月には幸畑(3)遺跡の調査に入った。遺跡内にはクマザサが繁茂して人力による表土剥ぎが困難なため、重機を導入して粗掘を行ったところ、幸畑(3)遺跡の東端部(道路建設用中心杭No100からNo101にかけて)の傾斜地を中心に遺物の分布がみられた。このため、この地域を全面的に調査することにした。調査における基準線は道路建設用中心杭No100とNo101を通る線としこれを延長してグリッドを設定した。1グリッドは4m×4mである。グリッドは東西に算用数字を、南北にアルファベットを付し、この組み合わせによって呼称した。中心杭No100はE-100グリッドである。基準軸線は、N-85.5°-Wである。

幸畑(3)遺跡からは、堅穴遺構、土坑、溝状ピットが、また、比較的新しい時代のものと思われる貝の廃棄ブロックが数箇所で見出された。

遺物の出土は全体的に見られたものの、遺構の検出数が少なく、当初予定の調査区域の調査終了に目途が立った。このため、関係機関と協議の結果、9月11日より、次年度調査予定地である幸畑(4)遺跡の試掘調査を併行して行うこととした。調査は次年度調査のために遺構数や遺跡の時代、性格の把握を目的として行ったため、検出遺構の精査は行わなかった。

10月20日、幸畑(3)遺跡の調査を完全に終了し、期間を短縮して平成7年度の調査を終了した。幸畑(4)遺跡の検出遺構は次年度に調査予定のため、保護処置としてブルーシートを被せた後、埋戻しを行った。

幸畑(4)遺跡及びそれ以後の路線予定地は、平成8年度に継続調査を行っている。

(平山・白鳥)



図1 遺跡の位置と周辺の遺跡

第4節 遺跡の立地と基本層序

遺跡の位置

幸畑(10)・(6)・(3)遺跡は、上北郡六ヶ所村の中央部の鷹架沼と市柳沼の間に形成された海岸段丘上に位置している。六ヶ所村は下北半島頭部の太平洋岸に位置し、中央部から南端にかけて大小の湖沼群が見られ、これら湖沼群から注ぐ河川が多く存在する。また、海岸段丘が発達しており、これらの台地上には多くの遺跡が密集するように存在している。

今回調査を行った幸畑(10)遺跡等が位置する台地上にも、多くの遺跡が確認されている。これまで県教育委員会によって調査された遺跡を表に示した。

遺跡の立地する地域は、むつ小川原開発に伴う買収計画により、現在は雑種地となっている。それ以前は畑地及び放牧地として活用され、台地の多くは削平や沢地などの埋め立てによる平坦化が行われていたようである。したがって、原地形は現状よりも起伏に富んでいたものと考えられる。

周辺の遺跡

(発掘調査されたものを中心に)

No.	県遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	文献	備考
1	50122	幸畑(10)	大字鷹架字道ノ下	縄文(早・中・後)	散布地		
2	50037	幸畑(6)	大字鷹架字道ノ下	縄文(後)	散布地	1,36	
3	50034	幸畑(3)	大字鷹架字道ノ下	縄文(晩)、弥生	散布地	1,42	
4	50035	幸畑(4)	大字鷹架字道ノ前	縄文(中・後)	散布地	1,36	
5	50032	幸畑(1)	大字鷹架字道ノ前	縄文(早・前・中・後)、弥生	散布地	1,36	
6	50120	幸畑(7)	大字鷹架字道ノ上	旧石器・縄文(早・前・中・後)、弥生	散布地	94,125,148	
7	50107	新納屋(1)	大字鷹架字道ノ下	縄文(早・前・後)	散布地	28	
8	50109	新納屋(2)	大字鷹架字道ノ下	縄文(早・前・後)	集落跡	42,62	
9	50115	鷹架	大字鷹架字道ノ下	縄文(早・前・中・後)、平安	集落跡	63,160	
10	50046	鷹架沼竅穴	大字鷹架字道ノ上	縄文(中・後・晩)、平安	集落跡	1,42,94	

(注) 文献の数字は青森県埋蔵文化財調査報告書のシリーズ番号である

遺跡の層序

調査区内の土層は第Ⅰ層から第Ⅶ層までの7層に分層できた。この層序は、幸畑(10)・(6)・(3)遺跡の各遺跡において基本的には同様である。以下、その特徴を述べる。

第Ⅰ層 黒色土(10YR1.7/1)

表土。しまりはあるが粘性に乏しい。地点によってやや砂質の部分もあり、細礫を含むこともある。乾燥すると格子目状のクラックが入る。層厚は最大40cm程である。

第Ⅱ層 黒色土(10YR 2/1)

不連続な層で、帯状またはブロック状に堆積している。ほぼ均一な層であるが、全体に粘性に乏しくしまりに欠ける。層厚は最大で15cm程である。

第III層 黒色土 (10YR 2 / 1)

暗褐色土及びロームを混入する部分がある、全体にやや砂質であるが、粘性がやや感じられ、湿性もやや認められる。浮石も微量含まれる場所がある。

層厚は最大25cm程度である。

第IV層 暗褐色土 (10YR 3 / 3)

黒色土を全体に混入する。浮石粒及びローム粒を混入する場所もみられる。しまり、粘性もやや認められ、湿性もある。層厚は最大30cm程である。

第V層 暗褐色土 (10YR 3 / 4)

上部はやや砂質であるが中位以下では第IV層の浮石粒を多量に混入する場所によっては、混人物に差が認められる。しまり、粘性が認められ、湿性もある。

地山(第VI層)との漸移層で下位の境界面は著しく起伏がみられる。層厚は変化に富み、最大で30cmである。

第VI層 黄褐色土 (10YR 5 / 8)

黄褐色の浮石主体の層で千曳浮石層に相当する層である。全体には浮石の粘性が小さく、砂質ぽい感じである。今回の調査での遺構確認面である。しまり、湿性があり、粘性がややある。

第VII層 明褐色土 (7.5YR 5 / 6)

地山のローム層で、粘土化している層である。

(白鳥 文雄)

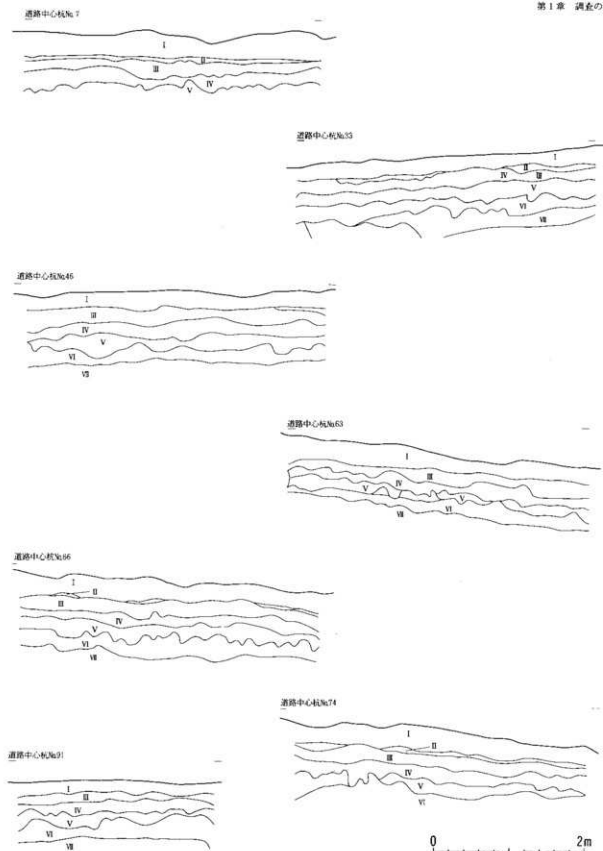


図2 基本層序

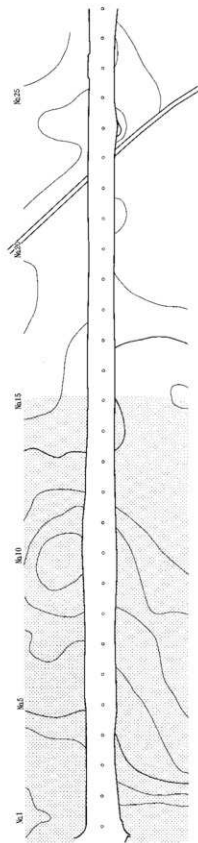
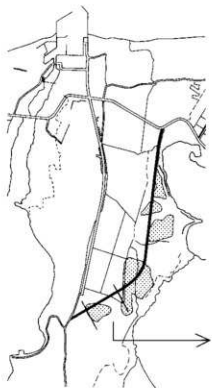


図3 幸畑10遺跡地形図（トーン部分 登録範囲）

第2章 幸畑(10)遺跡

幸畑(10)遺跡は、現尾駁有戸停車場線と改良予定路線との合流点に位置している。道路を隔てて幸畑(7)遺跡と接している。遺跡は起伏がほとんどないならかな地形であるが、開拓・開発による削平によって、基本層序の第II層～第VI層が欠如する箇所も見られた。

遺跡内から遺構は検出されなかった。

1 土器 (図4-1～8)

本遺跡からは、段ボール1箱分の遺物が出土した。時期的には縄文時代後期を主体としている。出土層位は第I層～第III層である。遺物が集中したのは遺跡北端(道路中心杭No2・No7付近)である。出土した土器は40点で、全て小破片であり、全体形を知りうるものはない。

1～4は同一個体で、薄手の浅鉢形を呈すると思われる。1・2は口縁部破片である。平口縁を呈し、口縁部に柱状突起を貼り付けている。柱状突起には上部から下部にかけて貫通孔が開けられ、突起下部を中心に粘土紐の貼り付けによる隆帯で文様帯が構成されている。隆帯上には縄文が施されている。3は胴部破片で、沈線と磨消縄文による文様が展開している。4は底部片である。これらの土器の胎土中には砂粒の混入がみられ、焼成は良好である。図化できなかったが、これらと同一個体と思われる小破片が他にも18点出土している。縄文時代後期前半から十腰内I式にかけての土器と思われる。

5は平口縁を呈する口縁部破片で、これも口縁部外面に粘土紐による隆帯が貼り付けられ、隆帯のみに縄文が施されている。外面及び内面に赤色顔料がわずかに残存する。焼成は良好である。縄文時代後期後半の土器と思われる。

6は胴部破片で沈線と磨消縄文による文様が展開されている。胎土中に砂粒が混入し、焼成は良好である。縄文時代後期前半から十腰内I式にかけての土器と思われる。

7・8は胴部破片である。網目状の絡条体回転文が施されるもので、胎土中に砂粒を混入し、焼成は良好である。縄文時代後期の粗製土器と思われる。

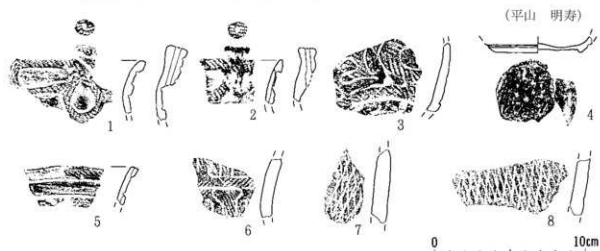


図4 出土土器

2 石器 (図5)

今回の調査では、石器は1点だけの出土である。このほかに、礫が数点出土しているが加工痕跡及び使用痕跡は認められなかった。

図15-1は、安山岩の円礫を素材としたスリ石で、1側縁を機能面としている。機能面の幅は2cm程で機能面の片側縁に向けて片減りが認められる。器体自体に成形痕が認められないことから素材を選択したものと考えられる。器体の両平坦面中心部及び機能面对側縁の湾曲部に敲打による小規模な回みとザラつきが認められる。

(白鳥 文雄)

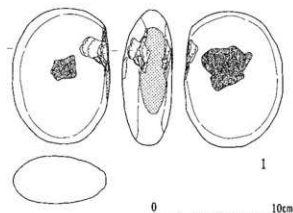
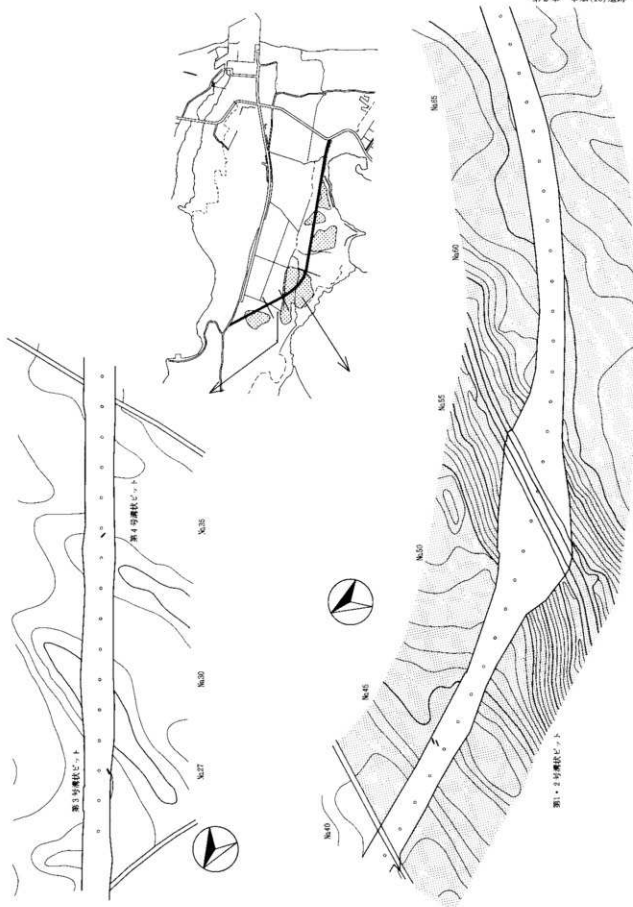


図5 出土石器

幸畑(10)遺跡 土器観察表

図版番号	出土地点	層	部位	施文文様	時期	整理番号	備考
図4-1	No.7左1	II	口縁部	口縁部突起、隆帯 (RL)	後期	1	2、3、4と同一個体
-2	No.7左1	II	口縁部	口縁部突起、隆帯 (RL)	後期	2	1、3、4と同一個体
-3	No.7左1	III	胴部	沈線文、磨消縄文	後期	3	1、2、4と同一個体
-4	No.7左1	III	底部		後期	4	1、2、3と同一個体
-5	No.2右2		口縁部	隆帯 (RL)	後期	5	赤色顔料付着
-6	No.2右1		胴部	沈線文、斜縄文	後期	6	
-7	No.2右2		胴部	絡条体回転文 (単軸絡条体第5類)	後期	8	
-8	No.2右2		胴部	絡条体回転文 (単軸絡条体第5類)	後期	7	



(国) 国土地院 第一分館より (一) 図 6 参畑(10)遺跡の地形図

第3章 幸畑(6)遺跡

幸畑(6)遺跡は、今回の調査区の幸畑(10)遺跡と幸畑(3)遺跡のほぼ中間に位置している。遺跡のほぼ中央部には、遺跡を分断するような形で大きな谷が存在し、この谷の下を村道が通っている。このため、谷の斜面部分は、露呈面及び崩落土中の遺物の有無などの調査にとどめた。谷の北側には敷高地が存在するが、南側は起伏のほとんどないなだらかな地形である。

第1節 検出遺構

今回の調査で検出した遺構は、溝状ピット4基である。2基は遺跡範囲内からの検出であったが、他の2基は、遺跡登録範囲から北西側にややはずれた地区から検出された。検出地点が本遺跡に近いことから本項に記載する。この2基の遺構の検出から、本遺跡範囲は北西側に延びるものと考えられるが、調査区域が路線上に限定されていることから全体的な広がりを確認することはできなかった。

第1号溝状ピット (図7)

〔位置〕 道路中心杭No43から北東へ7mほどの地点に位置している。

〔形状〕 開口部の平面形は、不整な長楕円形で、東側がやや角張っている。短軸断面では、底面からはほぼ垂直に立ち上がり、中位から緩やかに開くV字状を呈する。長軸断面では、ほぼ箱形を呈するが西壁が底面際でやや袋状に広がる。底面は緩やかな起伏があり、中央部がやや深い。

〔規模〕 長軸上では、開口部で370cm、底面で380cmである。短軸上では、開口部で30～50cm、底面で8～15cmである。深さは、105～118cmである。

〔堆積上〕 7層に分層できた。黒褐色土を基調とし、全体にローム及びロームブロックが混入している。下位はローム粒の混入がほとんど認められない黒褐色土が堆積している。人為堆積と考えられる。

〔長軸方向〕 長軸方向はN-89° -Wである。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は特定できないが、周辺の各遺跡での検出例から、縄文時代の所産と考えられる。

第2号溝状ピット (図7)

〔位置〕 道路中心杭No43から北東へ10mほどの地点に位置している。

〔形状〕 開口部の平面形は、不整な長楕円形である。短軸断面では、底面からはほぼ垂直に立ち上がり、開口部近くでやや開き気味となる。長軸断面では、ほぼ箱形を呈する。底面は緩やかな起伏があり、中央部が若干深い。

〔規模〕 長軸上では、開口部で335cm、底面で335cmである。短軸上では、開口部で22～35cm、底面で10～20cmである。深さは、80～115cmである。

〔堆積土〕 4層に分層できた。黒色土を基調とし、全体にローム及びロームブロックが混入してい

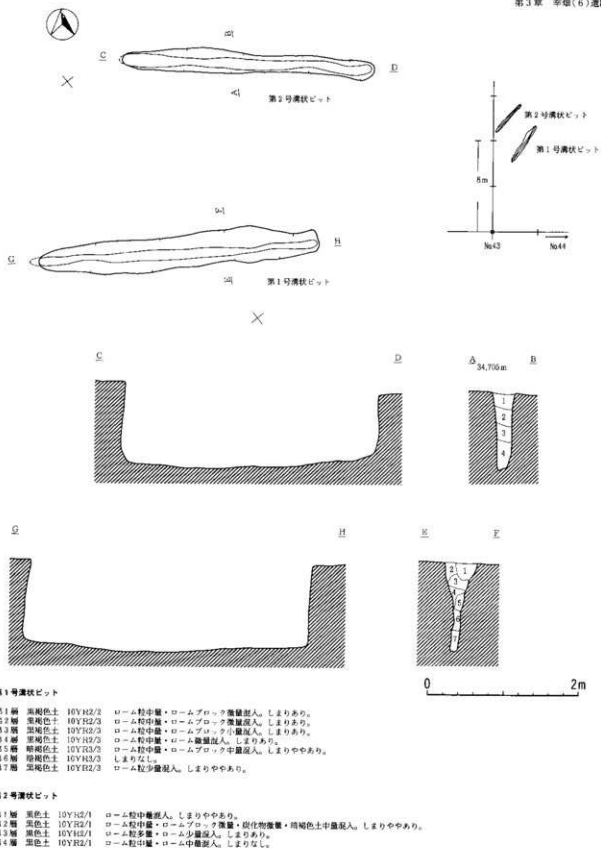


図7 第1号・2号溝状ピット

る。2層中には炭化物粒が微量混入している。人為堆積と考えられる。

〔長軸方向〕 長軸方向はN-84 -Wである。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は特定できないが、縄文時代の所産と考えられる。

第3号溝状ピット (図8)

〔位置〕 道路中心杭No27から、8m程No28方向へ向かった地点に位置している。

〔形状〕 開口部の平面形は、不整な長楕円形で南側がやや広めである。短軸断面では、全体的にはV字またはU字状を呈すが、場所によって大きく異なる。遺構中央部では底面より20cm上部で大きく袋状に穿たれている。また、遺構の両端部ではほぼ直線的である。基本的には、底面から開口部に向かい緩やかに外反気味に開くU字状を意識したものと考えられる。長軸断面では概ね台形状を呈し、開口部から底面両端に向けて大きく袋状に掘り込まれている。底面は大きな起伏を有し、北側へ向け大きく傾斜している。

〔規模〕 長軸上では、開口部で305cm、底面で447cmである。短軸上では、開口部で40~58cm、底面で18~35cmである。確認面からの深さは、108~135cmであるが、土層観察用ベルトにおける掘り込み面と考えられる部位からは、約150cmである。

〔堆積土〕 13層に分層できた。黒色土を基調とし、全体にローム粒及びロームブロックを混入する。10~12層は主にローム主体の層である。底面直上は黒色土中心のしまりのかける層である。人為堆積と考えられる。

〔長軸方向〕 長軸方向はN-38° -Eである。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は特定できないが、縄文時代の所産と考えられる。

第4号溝状ピット (図8)

〔位置〕 道路中心杭No35から、4mNo34方向へ向かった地点に位置している。

〔形状〕 開口部の平面形は、不整な長楕円形で両端側がやや広めである。短軸断面では、全体的には細いV字状を呈する。長軸断面では概ね箱形または逆台形状を呈しており、開口部から底面両端に向けてほぼ直線上に掘り込まれている。底面は大きな起伏を有し、南側へ向けやや傾斜している。

〔規模〕 長軸上では、開口部で365cm、底面で332cmである。短軸上では、開口部で15~32cm、底面で15~20cmである。深さは、100~135cmである。

〔堆積土〕 8層に分層できた。黒色土を基調とし、全体にローム粒及びロームブロックを混入する。下位の7層はローム主体の層である。底面直上は黒色土中心のしまりのかける層である。人為堆積と考えられる。

〔長軸方向〕 長軸方向はN-1° -Eである。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は特定できないが、縄文時代の所産と考えられる。

(白鳥 文雄)

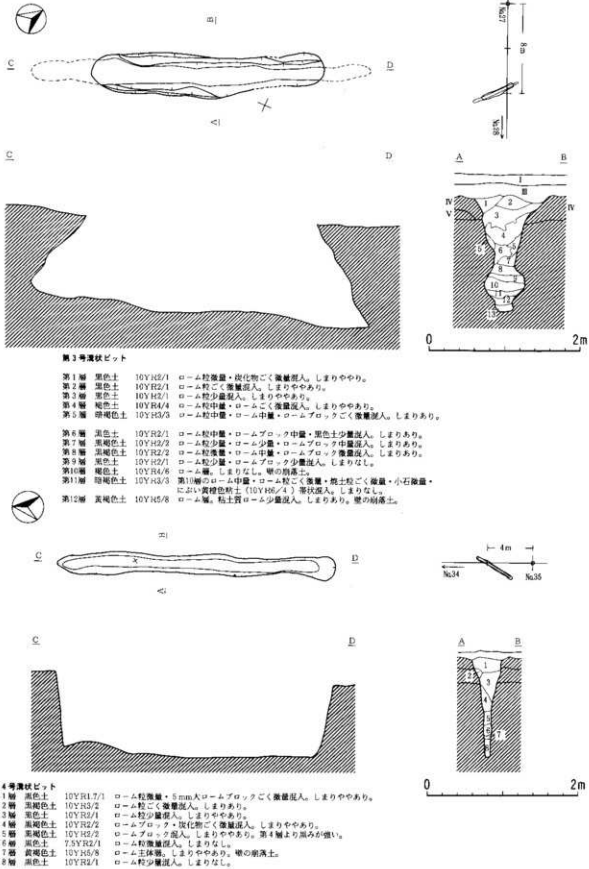


図8 第3号・4号溝状ピット

第2節 出土遺物

1 土器 (図9-1~4)

出土した土器は61点で、全て破片である。出土状態もほぼ散発的なもので、密集している地点は認められなかった。

1は補修孔がみられる口縁部破片である。平口縁で、口唇部を内傾させている。斜縄文を施すもので、胎土中に繊維を混入し、焼成は良好で堅緻である。縄文時代早期後半から前期初頃にかけての土器と思われる。

2は胴部破片である。複節縄文と平行沈線が施されている。胎土中に砂粒の混入がみられ、焼成は良好である。縄文時代中期後半から後期前半にかけての土器と思われる。

3は胴部破片である。非常に細い原体によって羽状縄文が施されている。胎土中に繊維が僅かに混入し、焼成は良好である。縄文時代早期後半から前期初頃にかけての土器と思われる。

4は平口縁の口縁部破片である。縄文が施されるが、口端部の一部を磨り消し、無文帯にしている。胎土中に砂粒を僅かに混入し、焼成は良好である。時期・形式とも不明である。

5は平底の底部破片で、無文である。胎土中に細礫を僅かに混入し、焼成は良好で堅緻である。時期・形式とも不明である。

6は胴部破片で、絡条体回転文を方向を違えて施文したものである。胎土中に砂粒の混入が見られ、焼成は良好で堅緻である。時期・形式とも不明である。

7は無文の胴部破片で、器壁は薄く、焼成は良好で堅緻である。時期・形式とも不明であるが、縄文時代後期の粗製土器の可能性もある。

8~12は、同一個体と思われる。8は口縁部片である。やや外反気味の平口縁を呈し、側面圧痕が鋸歯状に展開している。9~11は胴部破片で、縦位に絡条体回転文が施されている。12は底部片で、やや上げ底気味である。胎土中には繊維の混入が認められ、特に底部片に顕著である。図化できなかったが、同一個体と思われる小破片が他にも22点出土している。これらの土器は縄文時代前期後半の円筒下層d式土器の可能性がある。

13は胴部破片である。無文で、外面に炭化物が付着している。焼成は良好である。時期・形式とも不明である。

14は無文の底部片である。胎土中に細礫の混入がみられる。焼成は良好で堅緻である。時期・形式とも不明である。

なお、8~14は従来の幸畑(6)遺跡の範囲ではなく、道路建設用中心杭No31~33の範囲から出土した土器である。

(平山 明寿)

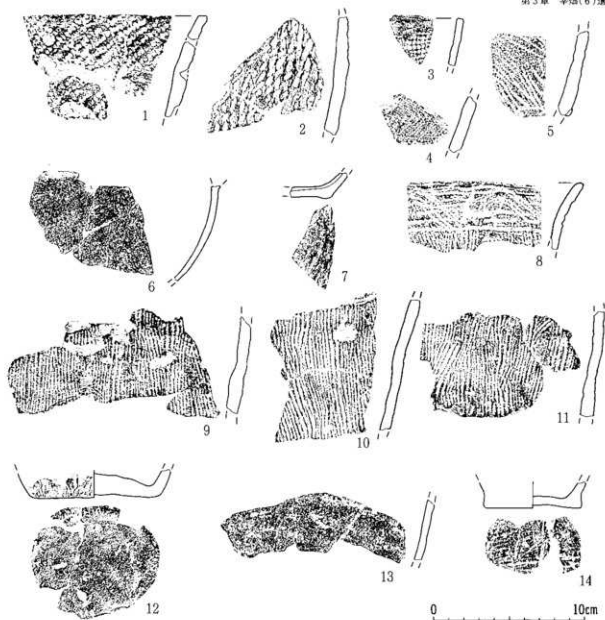


図9 出土石器

2 石器 (図10-1・2)

今回の調査で出土した石器は2点である。内1点は遺跡範囲外からの出土である。

1は、無茎凹基の石鏝で、挟りが深く作出されている。かえし部の一方の先端を欠失している。石質は珪質頁岩で、長さ20.5mm、幅(14.5)mm、厚さ3.5mm、重さ(0.6)である。

出土地点は、幸畑(10)遺跡と同(6)遺跡との間で、道路中心杭No33から終点側へ向かって10m程のトレンチ(No33左2)からの出土である。出土層位は第1層である。

2はスリ石で、安山岩のやや偏平な円礫を素材としており、片方の側縁を機能面としている。機能面の幅は1.5～2cm程であり片減りが認められる。この面の両側縁には1箇所づつの剥離痕が認められる。剥離痕が大きいことから、使用による剥離とするよりは手掛かりとして意図的な剥離の可能

性が高い。器体の中央部には敲打によるくぼみ及びザラつきが認められる。また、加熱を受けており、器体の3分の1程に煤状炭化物の付着し一端部は赤変している。

これらの石器のほかには礫などが出土しているが、加工痕跡及び使用痕跡の認められないものである。また、これらの礫は第1層(表土)中からの出土であり、地山中にも礫群を含む地層もあることから、耕作時の削平により掘り上げられた可能性も高く、搬入礫とも断定し得ないものである。

(白鳥 文雄)

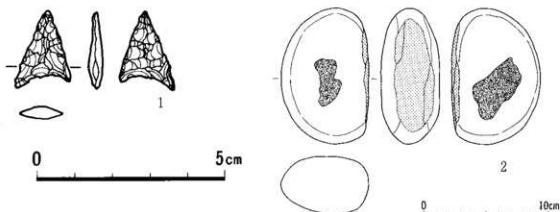


図10 出土石器

幸畑(6)遺跡 土器観察表

図版番号	出土地点	層	部位	施文文様	時期	整理番号	備考
図9-1	No.45右2	I	口縁部	斜縦文(LR)	早末~前初	1	補修孔
-2	No.46右2	I	胴部	縄文(RLR)、平行沈線	中後~後前	2	
-3	No.61左1	III	口縁部	縄文(LR)、口端部無文	不明	4	
-4	No.63左2	I	胴部	羽状縄文	早末~前初	3	
-5	No.60左1	III	胴部	単軸絡条体第1種	不明	6	
-6	No.60左1	IV	胴部	無文	不明	7	
-7	No.59左3	III	底部	無文	不明	5	
-8	No.33左2	I	口縁部	側面圧痕文	前期	31	同一個体
-9	No.33左2	I	胴部	単軸絡条体第1A類	前期	32	"
-10	No.33左2	I	胴部	単軸絡条体第1A類	前期	33	"
-11	No.33左2	I	胴部	単軸絡条体第1A類	前期	34	"
-12	No.33左2	I	底部	底外面無文	前期	35	"
-13	No.31左1	I	胴部	無文	不明	36	
-14	No.33右1	I	底部	無文	不明	37	炭化物付着

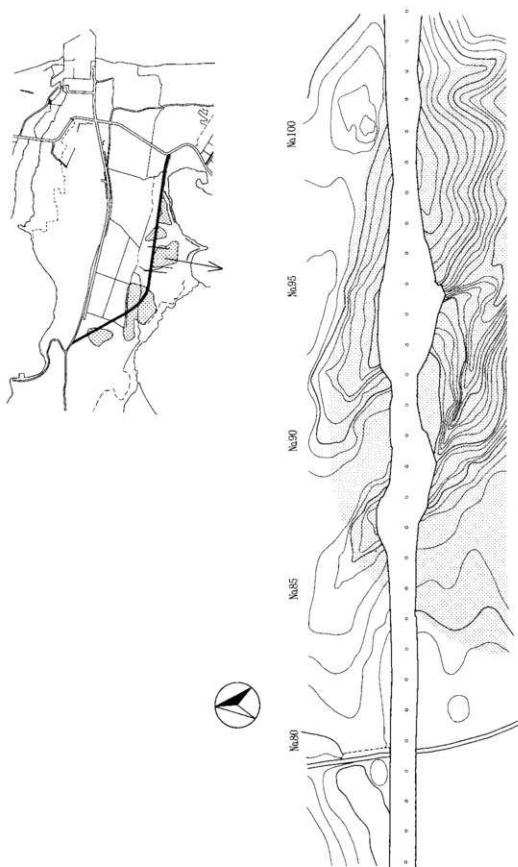


図11 幸畑(3)遺跡跡地形状区分図(上)ノ一部分(遺跡跡地)

第4章 幸畑(3)遺跡

幸畑(3)遺跡は市柳沼の北側に位置し、幸畑(6)遺跡と幸畑(4)遺跡の間に位置している。

遺跡は、市柳沼に向かい全体に傾斜しており、起伏が認められる。

遺構・遺物が集中して検出されたのは遺跡東端（道路中心杭No97～101の範囲）の南向きの傾斜地からである。

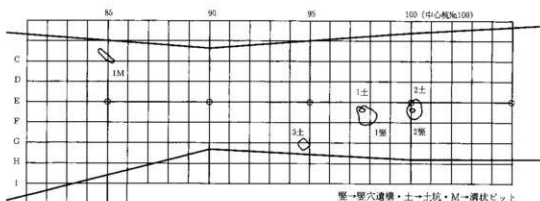


図12 幸畑(3)遺跡遺構配置図

第1節 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出した遺構は、竪穴遺構2基、土坑3基、溝状ピット1基である。

1 竪穴遺構

第1号竪穴遺構（図13）

〔位置〕 E・F—97・98グリッドに位置している。

〔重複〕 遺構の北側で第1号土坑と重複している。底面直上の第4層が土坑を覆っていることから、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形を呈する。規模は開口部で長軸447cm・短軸353cm、底面は長軸428cm・短軸342cmを測る。確認面からの深さは79cmである。

〔壁・底面〕 第VI層を壁及び底面にしている。壁は床面から開口部に向かってほぼ垂直に立ち上がる。底面は緩やかに凹凸し、中央部に向かって窪む鍋底状を呈している。

〔堆積土〕 5層に分層された。黒褐色土主体で、全体にロームブロックを混入している。第1層以外はややしまっている。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は不明である。

（平山 明寿）

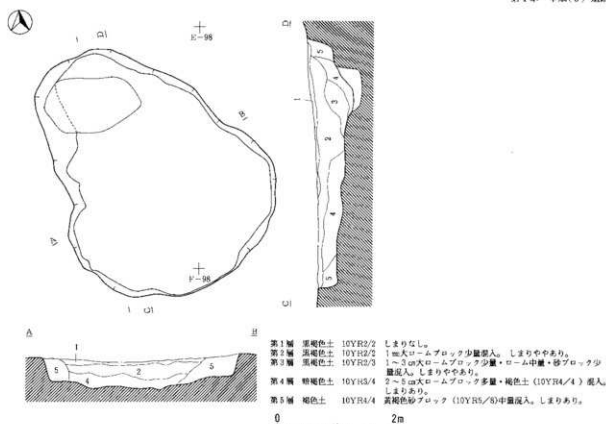


図13 第1号堅穴遺構

第2号堅穴遺構 (図14)

〔位置〕 D—100、E—99・100グリッドに位置している。

〔重複〕 本遺構のほぼ中央で第2号土坑と重複している。土坑に堆積土が切られており、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北西側が抉れた不整形円形を呈する。規模は開口部で長軸380cm・短軸321cm、底面は長軸374cm・短軸301cmを測る。確認面の傾斜のため、残存する深さは北側の壁で34cm、南側で13cmである。

〔壁・底面〕 第VI層を壁及び底面にしている。遺構北側は堆積土と壁面の判別が難しかったため、壁及び床面を掘り過ぎた箇所がある。壁は床面から開口部に向かってほぼ垂直に立ち上がる。底面は南側に傾斜している。東西方向はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 3層に分層された。暗褐色土主体で、全体にローム粒を混入している。第3層以外はややしまっている。

〔出土遺物〕 堆積土より縄文土器が24点、剥片石器が2点、礫石器が2点出土した。

土器はすべて小破片で、図化及び拓影をとれたものは6点である。

1は胴部破片である。馬蹄状側面圧痕と横走縄文により文様が構成され、内面に炭化物が付着して

いる。胎土に繊維及び砂粒を僅かに混入し、焼成は良好で堅緻である。縄文時代早期後半の土器と思われる。2は胴部破片である。斜縄文と横位の結節回転文が施されたもので、内外面には炭化物が付着している。焼成は良好である。縄文時代早期後半の土器と思われる。4～6は胴部破片である。斜縄文を施すもので、内面にはユビナデ調整痕及び炭化物の付着がみられる。やや軟質で、胎土中には砂粒の混入が僅かに認められる。3は口縁部破片で、平口縁を呈すると思われる。胎土や施文文様から4～6と同一個体である可能性もある。これらの土器は時期・形式とも不明である。

石器は4点出土している。剥片石器は2点の出土で、ともに不定形石器である。1は石筥の基部端の破片と考えられるが、折損部に再加工の剥離痕が認められる。2は側縁の一方に剥離を加えているが、刃部を形成するには至っていない。他方の側縁には連続した刃こぼれが認められる。3・4はスリ石である。3は完形品で側面の一方を機能面としており、非常に緻密な面を構成している。器体の各所には敲打によるザラつきが認められる。4は半欠品で側面の一方を機能面としている。端部に敲打痕が認められ、敲打の度合いから敲打具としての使用も考えられる。

[時期] 底面からの出土遺物がないことから、断定はできないが、遺構周辺および堆積土からは縄文時代早期後半の土器だけが出土していることから、構築時期も同時期と考えられる。

(平山・白鳥)

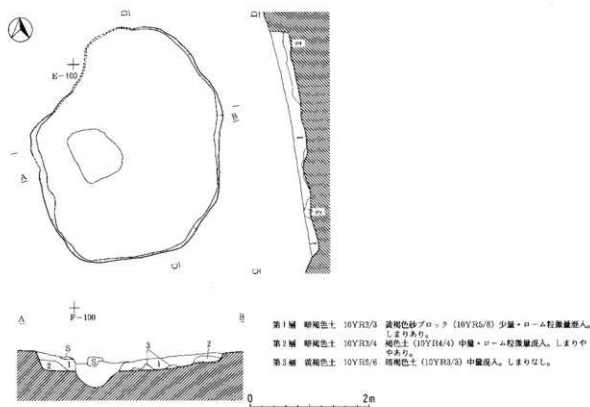
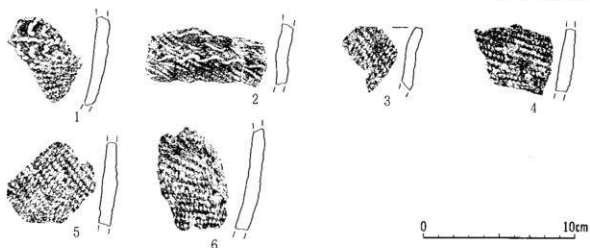
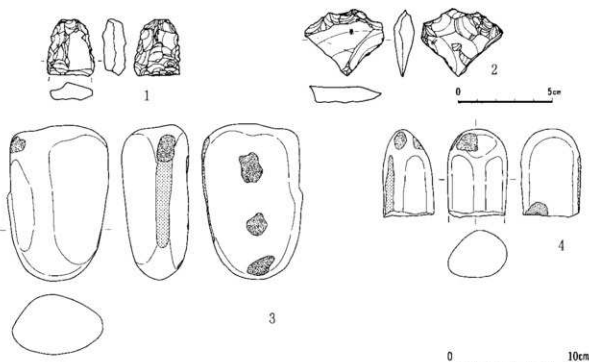


図14 第2号竪穴遺構



図版番号	出土地点	層	部位	施文文様	時期	整理番号	備考
図15-1	第2号竪穴遺構	覆土	胴部	縦文(RL)、馬蹄状側面圧痕	早期後半	1	炭化物付着
-2	第2号竪穴遺構	覆土	胴部	斜縦文(RL)、結節回転	早期後半	2	炭化物付着
-3	第2号竪穴遺構	覆土	口縁部	斜縦文(RL)		3	
-4	第2号竪穴遺構	覆土	胴部	斜縦文(RL)		5	炭化物付着
-5	第2号竪穴遺構	覆土	胴部	斜縦文(RL)		6	炭化物付着
-6	第2号竪穴遺構	覆土	胴部	斜縦文(RL)		4	炭化物付着

図15 第2号竪穴遺構出土土器



図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
図16-1	2号竪穴	覆土	45.5	41.5	10.5	10.4	并負頁岩	不定形		109
-2	2号竪穴	覆土	(40.0)	(24.5)	(11.0)	(8.6)	并負頁岩	不定形		110
-3	2号竪穴	覆土	69.0	47.0	36.5	187.0	砂岩	スリ石		1
-4	2号竪穴	覆土	121.0	78.5	52.0	737.0	砂岩	スリ石		2

図16 第2号竪穴遺構出土石器

2 土 坑

第1号土坑 (図17)

〔位置〕 E-97グリッドに位置している。

〔重複〕 第1号竪穴遺構と重複している。竪穴遺構を精査中に底面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。竪穴遺構底面直上の第4層に覆われていることから、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形を呈している。規模は開口部で長軸159cm・短軸95cm、底面は長軸145cm・短軸84cmを測る。確認面からの深さは42cmである。

〔壁・底面〕 第VI層を壁及び底面にしている。壁は床面から開口部に向かってほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層された。褐色土が主体で、砂ブロックを混入している。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は不明である。

(平山 明寿)

第2号土坑 (図17)

〔位置〕 E-99・100グリッドに位置している。

〔重複〕 第2号竪穴遺構と重複している。竪穴遺構の堆積土を切っていることから、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形を呈している。規模は開口部で長軸99cm・短軸90cm、底面で長軸61cm・短軸56cmを測る。確認面からの深さは41cmである。

〔壁・底面〕 第2号竪穴遺構の堆積土を壁にし、第VI層を底面にしている。壁は床面から開口部に向かって傾斜しながら立ち上がる。底面は鍋底状である。

〔堆積土〕 2層に分層された。褐色土主体で、ややしりがある。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 堆積土から石鏃が1点出土している。周縁を両面から加工しているが、先端部の調整がなされていないことと基部側の調整が荒い鈎難で終えられていることから、小型のスクレーパーの可能性も考えられる。

〔時期〕 第2号竪穴遺構との重複関係から、構築時期は縄文時代早期後半以降と考えられた。

(平山・白鳥)

第3号土坑 (図17)

〔位置〕 F-94・95、G-94グリッドに位置している。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸の不整形を呈する。各壁はやや曲線的である。規模は開口部で長軸220cm・短軸210cm、底面で長軸193cm・短軸180cmを測る。掘込み面からの深さは92cmである。

〔壁・底面〕 第IV層～第VI層を壁にしている。底面は第VI層である。壁は底面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。壁及び底面はともに堅緻である。

〔堆積土〕 8層に分層された。黒色～黒褐色土主体で、全体にローム粒及びロームブロックを混入している。底面直上の第8層には焼土及び炭化物が混入している。第7層はほぼ均一の白頭山火山灰層で自然堆積と考えられるが、第3層中に多量に混入する焼土は人為堆積によるものと思われる。

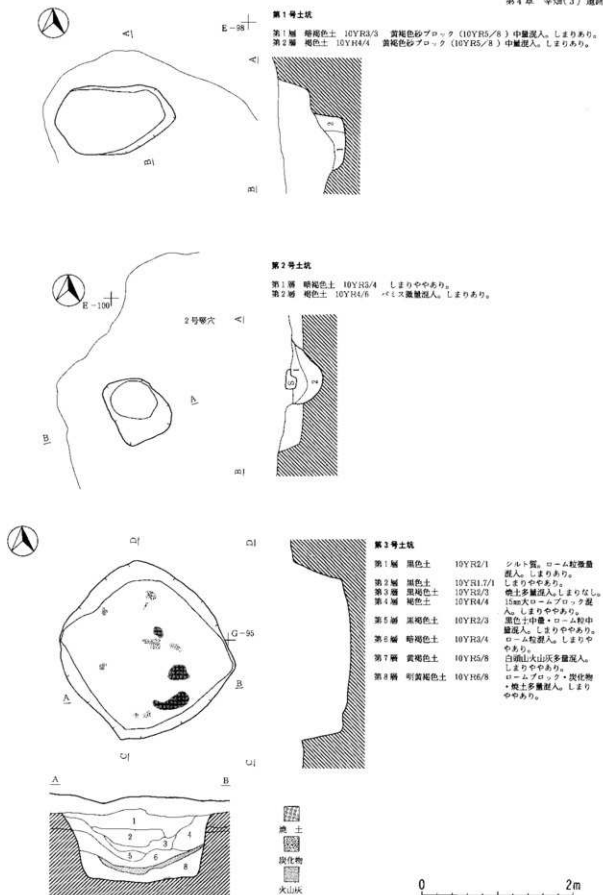


図17 第1号・2号・3号土坑

辛畑(10)遺跡・辛畑(6)遺跡・辛畑(3)遺跡

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 堆積土中の白頭山火山灰から平安時代(10C前葉)に構築された遺構と考えられる。なお、第5章に火山灰の蛍光X線分析の結果をまとめている。

(平山 明寿)

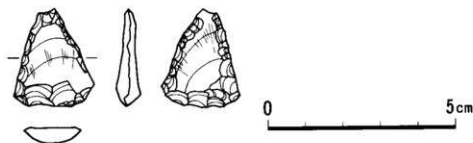


図18 第2号土坑出土石器

3 溝状ピット

第1号溝状ピット (図19)

〔位置〕 B-84・85、C-85グリッドに位置している。

〔形状〕 開口部の平面形は、不整な長楕円形で、北西側がやや細い。短軸断面では、底面からほぼ垂直に立ち上がり、中位で一度すぼまったあと、開口部に向かい外反気味に開く、いわゆる縦長のフラスコ状を呈している。長軸断面では、開口部から中位まではほぼ垂直であるが、底面に向かい大きく袋状に膨らむ。底面は緩やかな起伏があり、南東側に傾斜している。

〔規模〕 長軸上では、開口部で306cm、中位で296cm、底面で406cmである。短軸上では、開口部で35~57cm、中位で20~38cm、底面で40~55cmである。深さは、100~118cmである。

〔堆積土〕 5層に分層できた。上部は黒褐色土を基調とし、ローム及びロームブロックが混入している。下位には砂質ロームが堆積している。人為堆積と考えられる。

〔長軸方向〕 長軸方向はN-38°-Wである。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 時期は特定できないが、周辺の各遺跡での検出例から、縄文時代の所産と考えられる。

(白鳥 文雄)

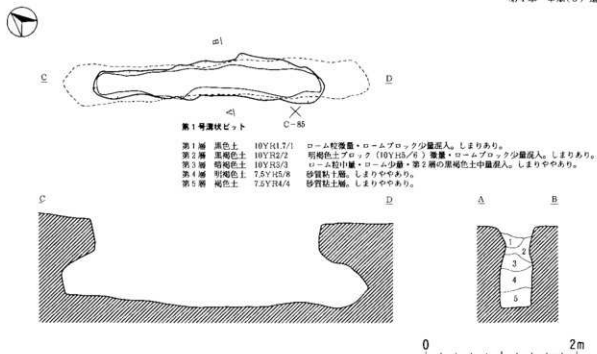


図19 第1号溝状ピット

第2節 遺構外出土遺物

1 土器

土器の分類にあたっては、復元資料が少ないことや小破片が多いことから、特徴的な文様構成を有する資料を中心に次のように分類した。

第I群土器 縄文時代早期中葉から早期末にわたる一群の土器を次のように分類する。

- 1類 貝殻条痕文系土器類。
- 2類 結節回転文の施文を特徴とする早期の土器類。
- 3類 縄文を施文する早期の土器類。
- 4類 上記以外の縄文時代早期末に位置づけられる土器を一括した。

第II群土器 時期・形式を特定できない土器。

第I群土器 (図20—1～図1—165)

1類 (図20—1)

縄文時代早期中葉の貝殻条痕文を施す土器である。口縁部破片が1点出土した。外面には地文として貝殻条痕文が施され、口端部には貝殻腹縁による刺突文が、口唇部には絡条体圧痕文が見られる。焼成は良好で、やや硬質である。

2類 (図20—2～図24—95)

縄文時代早期後半の結節回転文を特徴とする土器類で、表館(1)遺跡第VI群土器(青森県教育委員会1989)に対応すると思われる。出土遺物の大半を占めている。形態は平口縁で、口縁部から底部にむかって直線的にすぼまる器形の深鉢と思われるが、底部形状は不明である。施文文様には結節回転文、押し引き刺突文、沈線文などが見られる。なかには、隆帯を貼り付けるものもある。内面調整としてユビナデが顕著に見られ、焼成が良好なものが多い。

(A) 結節回転文を施す土器 (図20—2～31)

2～4は口縁部破片である。結節回転文は、施文部の地文を磨り消した後に施されたものが多く、2・5～9にその特徴が見られる。しかし、中には側面圧痕を施したものの(3)や、地文を磨り消さずに結節回転文を施したものの(26)、地文が絡条体回転文のもの(27)も見られる。25は横走縄文であるが、結節回転文が施されていることから、本種に含める。28～31は同一個体と思われる。

(B) 隆帯を貼り付けたもの (図21—32～44)

口縁部に粘土紐による隆帯が貼り付けられたものである。

32は口縁部から胴部中央にかけての破片で、口唇部には細い篋状工具による刺突文が、隆帯には横走縄文と押し引き刺突が見られる。横走縄文は胴部から地文として施文されている。押し引き刺突は隆帯にのみ見られ、地文上に施されている。また、補修孔が見られる。

33は口縁部から胴部中央にかけての破片である。隆帯はやや胴部よりところに貼り付けられている。隆帯と胴部には然り戻し縄文と結節回転文が施され、補修孔が見られる。

34～38は同一個体と思われる。34は口縁部破片である。隆帯には沈線文が見られる。口縁部の結節回転文は、施文部の地文を磨り消した後に施されたもので、前述のA種土器と同じ特徴が見られる。隆帯に施文される文様には他にも、側面圧痕(39・41)や、縄文(40・42)、結節回転文(43)、馬蹄状の側面圧痕(44)などが見られる。44の内面には炭化物の付着が見られる。

(C) 押し引き刺突を施す土器 (図22—45～69)

口縁部や胴部に押し引き刺突が施されるものである。

45～56は同一個体と思われる。45～48は口縁部破片で、僅かに外反している。口端部の波状沈線は、地文を磨り消した後に施されたものである。胴部の押し引き刺突は地文上に施されたものである。

57～59は同一個体と思われる口縁部破片で、僅かに外反している。口端部の押し引き刺突は、地文を磨り消した後に施されたものである。

60～62及び65～68は側面圧痕と押し引き刺突が施されたものである。65は口縁部破片で、口唇部には縄文回転文が見られる。66・67の内面には炭化物の付着が見られる。

63・64・69は地文縄文上に押し引き刺突が施されたもので、63・64は口縁部である。

(D) 沈線文を施す土器 (図23—70～78)

平行沈線を主体とした沈線文を口縁部と胴部に施したものである。沈線文は、施文部の地文を磨り消して施されている。

70～73は口縁部破片で、70は口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部は僅かに外反している。地文縄文は方向を違えて施されたものである。口縁部の沈線文は3条の平行沈線と、斜沈線及び連弧文によって構成されたものである。斜沈線は口縁部から下ろされている。沈線は連弧文、平行沈線、

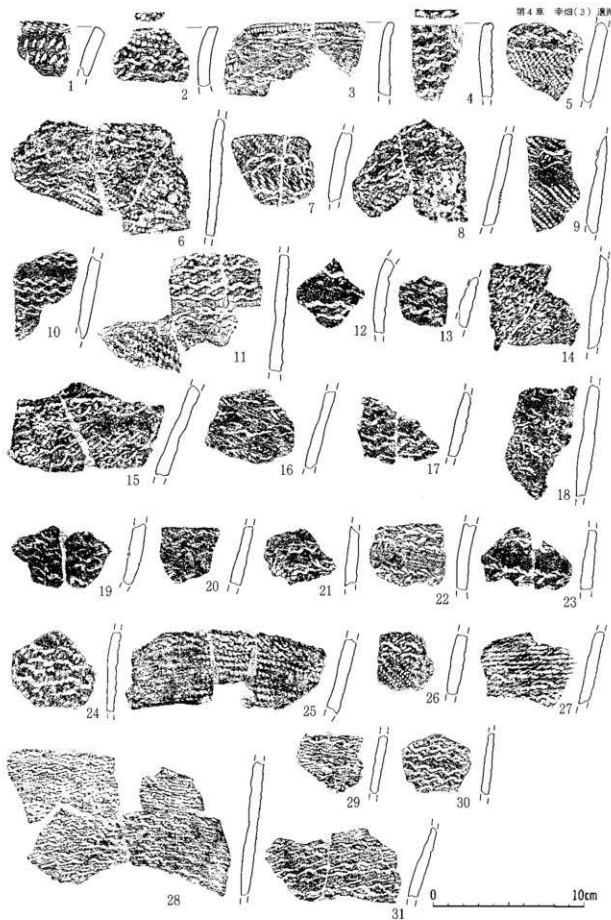


图20 土器-1

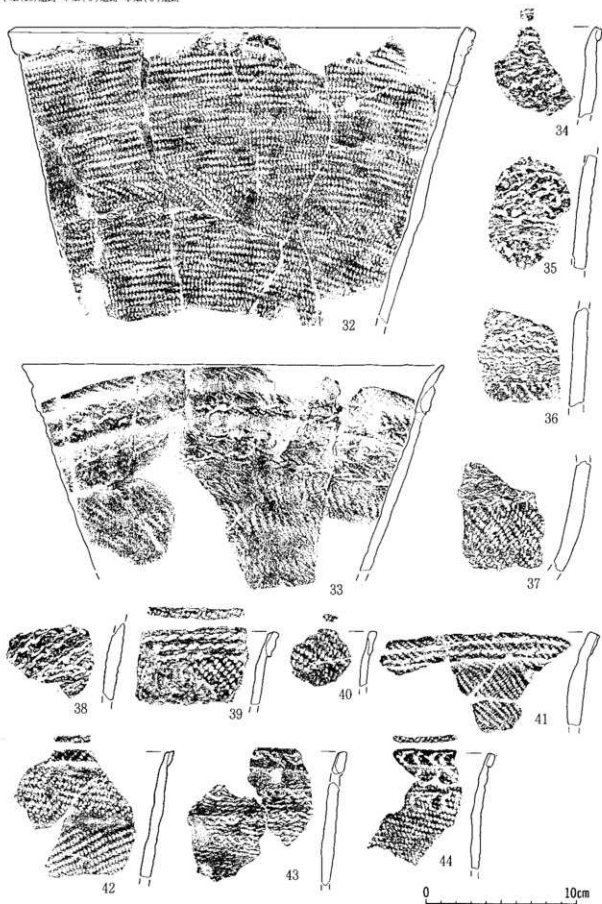


图21 土器-2

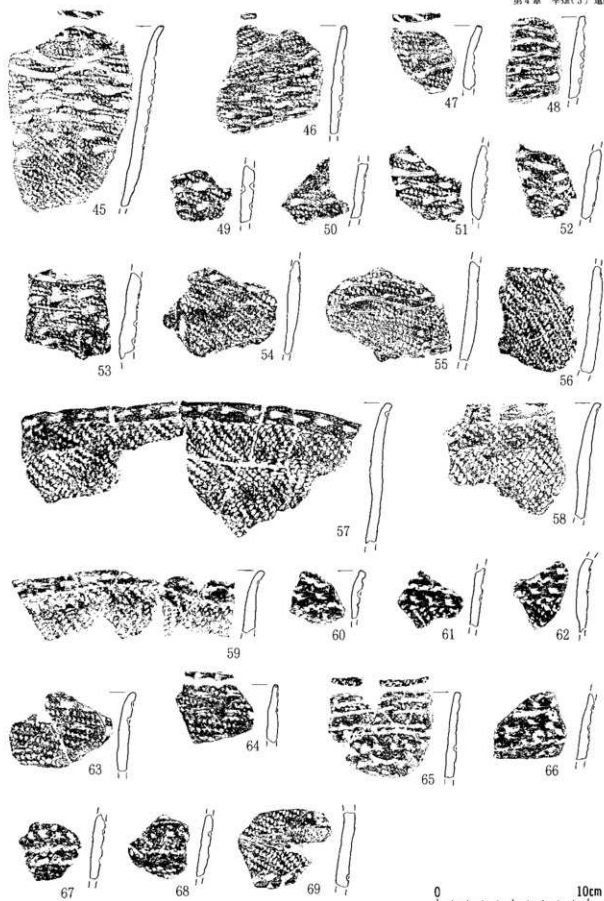


图22 土器-3

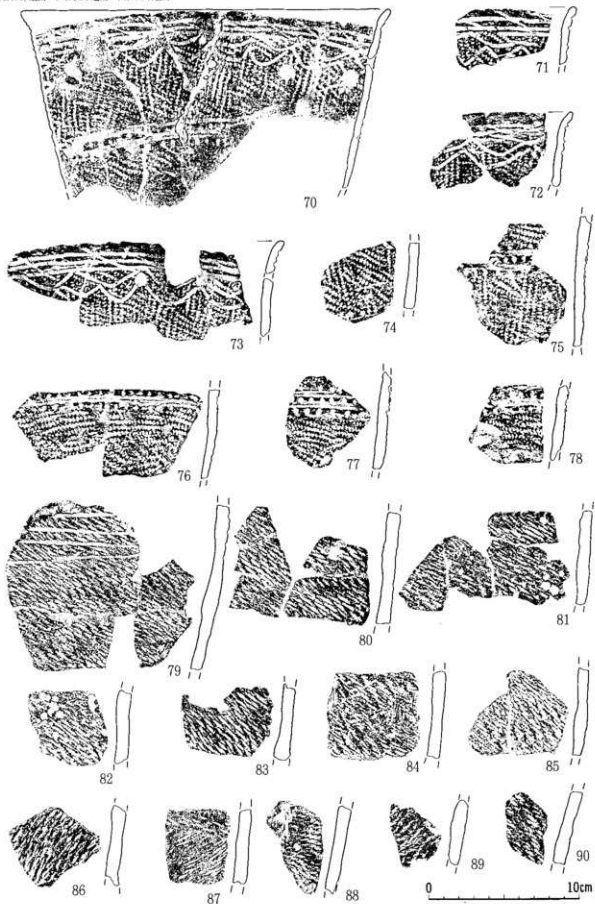


图23 土器-4

斜沈線の順に施文されたものである。胴部には2～3条の平行沈線が施され、沈線間に紐の結び目による刺突文が見られる。内面には炭化物が付着し、補修孔が見られる。これらは同一個体と思われる。(E) 然り戻し縄文を施す土器 (図23—79—図24—95)

33と同様に然り戻し縄文が施されていることから本類に含めた。胴部破片である。79・94・95には平行沈線がみられる。

3類 (図24—96—図25—119)

主に縄文が施される早期の土器で、赤御堂及び早稲田5類のあたりに対応される可能性のある類をまとめた。内面調整はコビナデが顕著で、胎土中に砂粒の混入が見られるものが多い。また、やや軟質である。

96は深鉢の胴部片である。縄文が方向を違えて施されている。内面には炭化物の付着が認められる。

97～101は同一個体と思われる。97～99は口縁部片で、やや外反気味である。口端部には縦位の側面疔痕が、胴部には縄文が施されている。外面には炭化物が付着している。

102～119は縄文が施されるもので、102～110は口縁部破片である。105～107は口唇部に刻みが見られる。

114・118・119は絞形状縄文が施されている。他に比べ、焼成は良好である。

4類 (図25—120—図26—166)

縄文時代早期末に位置づけられる土器を一括した。3類土器に比べ、器厚がやや薄く、条の走行が一定していないものが多い。焼成は概ね良好である。

120～123は口縁部破片である。121は絡糸体回転文が施されるもので、口唇部には原体疔痕が押圧されている。122・123はそれぞれ側面疔痕を縦位・横位に施したもので、口唇部には筧状工具による刻みが見られる。121～123は施文文様は異なるものの、胎土や焼成・器厚は2類土器に類似している。124・125は縄文の他にも結節回転文を施すもので、胎土中に砂粒の混入が認められる。139には補修孔がみられる。

140～151は表裏縄文土器である。140・141は口縁部破片で、やや外反している。

152～165は底部片である。平底で、底外面に施文するものが多い。底部から胴部への立ち上がりを良好に確認できる資料は少ない。165は尖底と思われる。

第II群土器 (図26—167—図27—182)

時期及び形式を特定できない土器を一括する。これらの土器の胎土中に砂粒の混入はあまり見られない。概して焼成は良好である。

166～171は平口縁の口縁部破片である。166は口縁部に幅広の沈線が浅く鋸歯状に施文され、口唇部には筧状工具による刺突がみられる。表館X群に相当する土器の可能性もある。167は縄文を施したもので、外面の風化は激しい。内面に炭化物の付着がみられる。168は絡糸体回転文を施したもので、169は口唇部に刻みが見られるものである。胴部は沈線文と縄文が施されている。170は強く外反する口縁部破片で、口端部には押し引き刺突文が施されている。内面に炭化物の付着がみられる。壺形土器の可能性もある。171は隆帯及び押し引き刺突が施されていることから、第I群2類土器に含まれる可能性がある。

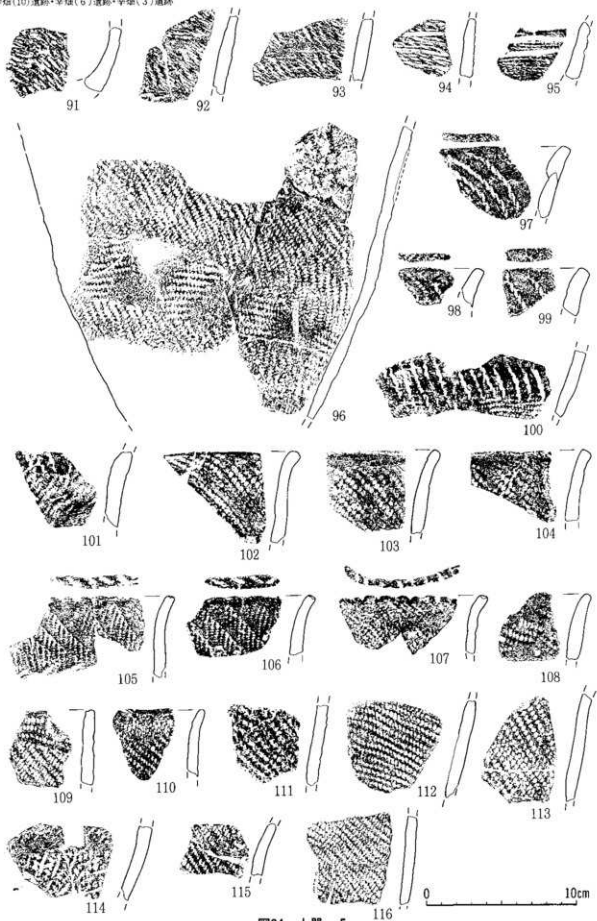


图24 土器-5

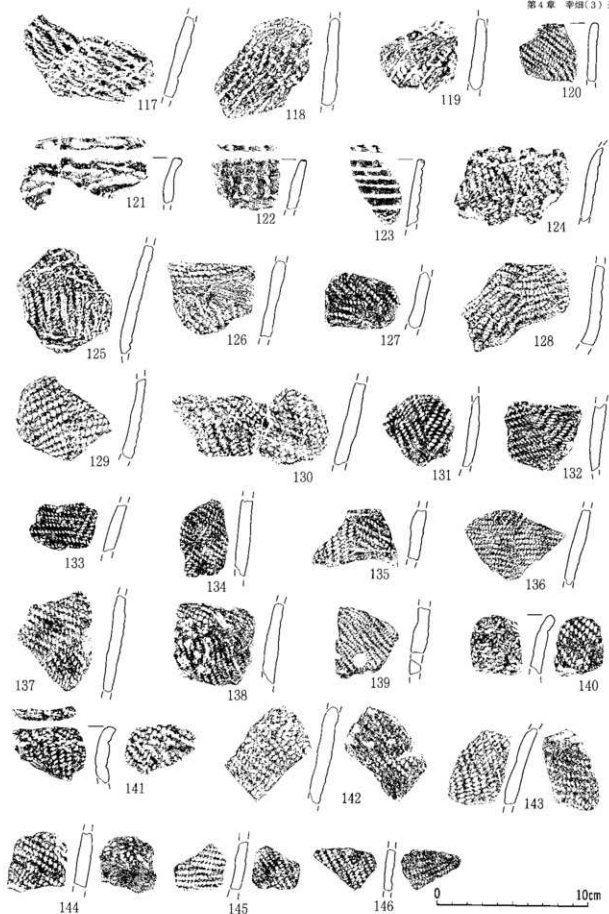


図25 土器-6

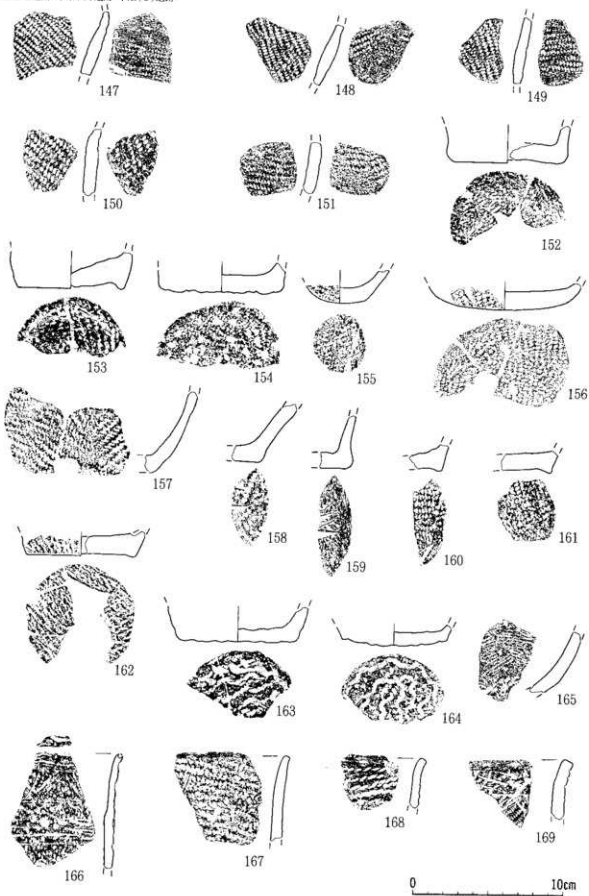


图26 土器-7

172～179は胴部破片である。172は縄文と側面圧痕文が施されたものである。173は絡条体回転文を施すもので、内面に炭化物の付着がみられる。174は絡条体回転文の他に、指頭圧痕が施された微隆帯が見られるものである。内面は剥落しているが、焼成は良好で硬質である。175は縄文と鋸歯状の側面圧痕文を施すものである。176は縄文と絡条体回転文が施されたもので、内面に炭化物の付着がみられる。177は頸部に近い胴部破片で、細い平行沈線と磨消縄文が施されるものである。178は縄文と連弧文を施すものである。177・178は縄文時代後期の土器の可能性がある。179は縄文と押し沈線と連弧文が施されたものである。

180～182は平底の底部辺である。180は底外面に同心円状に沈線文及び押し引き刺突文を配するものである。181は底外面にも縄文が施されている。182は無文で硬質である。

(平山 明寿)

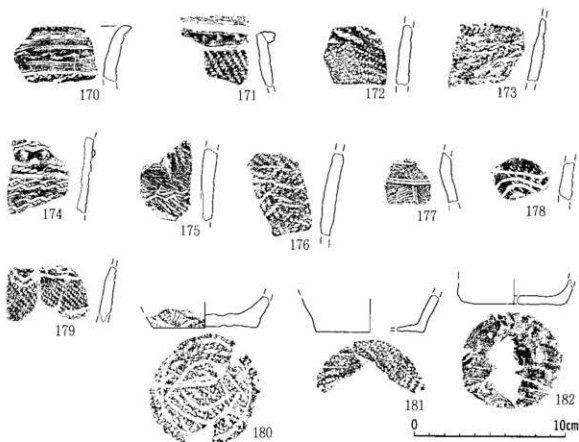


図27 土器-8

図版番号	出土地点	器部位	施文文様	分類	整理番号	備考		
図20	1	F-102	II 口縁部	貝殻条痕文、貝殻複線刺突、口唇部結条体圧痕	I-1	179		
	2	F-103	II 口縁部	結節回転文、斜織文(R.L)、口唇部織文(R.L)	I-2-A	183		
	3	E-102	III 口縁部	結節回転文、側面圧痕(L)	I-2-A	133		
	4	B-103	III 口縁部	結節回転文、口唇部結節圧痕	I-2-A	46		
	5	E-101	III 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	566		
	6	F-102	III 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	756		
	7	F-103	III 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	583		
	8	F-102	III 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	758		
	9	F-103	III 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	511		
	10	F-103	I 胴部	結節回転文	I-2-A	577		
	11	F-102・103	III 胴部	結節回転文	I-2-A	575		
	12	F-102	III 胴部	結節回転文	I-2-A	775		
	13	G-104	III 胴部	結節回転文	I-2-A	772		
	14	F-101	III 胴部	結節回転文	I-2-A	278		
	15	C-104	I 胴部	結節回転文	I-2-A	754		
	16	C-102	I 胴部	結節回転文	I-2-A	539		
	17	G-104	III 胴部	結節回転文	I-2-A	766		
	18	G-100	I 胴部	結節回転文	I-2-A	769		
	19	G-104	III 胴部	結節回転文	I-2-A	767		
	20	G-104	III 胴部	結節回転文	I-2-A	773		
	21	D-102	I 胴部	結節回転文	I-2-A	690		
	22	G-101	胴部	結節回転文	I-2-A	615		
	23	F-101	I 胴部	結節回転文	I-2-A	286		
	24	F-103	III 胴部	結節回転文	I-2-A	587		
	25	A-99	II 胴部	結節回転文、横走織文(R.L)	I-2-A	757		
	26	D-104	I 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-A	547		
	27	F-103	III 胴部	結節回転文、単軸結条体第1種(R)	I-2-A	287		
28	G-104	III 胴部	結節回転文	I-2-A	609	同一個体		
29	G-104	I 胴部	結節回転文	I-2-A	616	〃		
30	G-104	I 胴部	結節回転文	I-2-A	619	〃		
31	G-104	I 胴部	結節回転文	I-2-A	608	〃		
図21	32	F-103	I 口縁部	隆帯(押し刺突)、横走織文(R.L)、口唇部刺突	I-2-B	739		
	33	C-102	I 口縁部	口縁部直下仁隆帯、横走織文(R.R)、結節回転文	I-2-B	65		
	34	D-101	I 口縁部	隆帯(沈線)、結節回転文、口唇部沈線	I-2-B	84	同一個体	
	35	D-101	I 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-B	746	〃	
	36	D-101	I 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-B	728	〃	
	37	D-101	I 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-B	727	〃	
	38	D-101	I 胴部	結節回転文、斜織文(R.L)	I-2-B	749	〃	
	39	E-102	III 口縁部	隆帯(側面圧痕、R.L)、織文(R.L)、口唇部織文(R.L)	I-2-B	134		
	40	C-102	I 口縁部	隆帯(R.L)、斜織文(R.L)、口唇部織文(R.L)	I-2-B	60		
	41	F-104	I 口縁部	隆帯(側面圧痕、R.L)、斜織文(R.L)	I-2-B	148		
	42	B-103	I 口縁部	隆帯(L.R)、織文(L.R)、口唇部織文(L.R)	I-2-B	35		
	43	G-104	III 口縁部	隆帯(結節回転文)、結節回転文	I-2-B	236		
	44	F-101	I 口縁部	隆帯(馬蹄状側面圧痕)、織文(R.L)、口唇部織文(R.L)	I-2-B	154	内面炭化物付着	
	図22	45	F-103	II 口縁部	押し刺突、波状沈線、口唇部刻目	I-2-C	153	同一個体
		46	F-103	III 口縁部	押し刺突、波状沈線、口唇部刻目	I-2-C	598	〃
47		F-103	II 口縁部	押し刺突、波状沈線、口唇部刻目	I-2-C	182	〃	
48		F-103	III 口縁部	押し刺突、波状沈線	I-2-C	234	〃	
49		F-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	762	〃	
50		F-103	III 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	629	〃	
51		F-103	II 胴部	押し刺突、波状沈線、斜織文(R.L)	I-2-C	760	〃	
52		F-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	761	〃	
53		F-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	759	〃	
54		F-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	628	〃	
55		G-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	611	〃	
56		F-103	II 胴部	押し刺突、斜織文(R.L)	I-2-C	627	〃	

図版番号	出土地点	層 部 位	施 文 文 様	分 類	整理番号	備 考
図22-57	F-103	Ⅲ 口縁部	押引割突、斜縄文(RL)	I-2-C	146	同一個体
-58	F-103	Ⅲ 口縁部	押引割突、斜縄文(RL)	I-2-C	225	"
-59	E・F-103	Ⅲ 口縁部	押引割突、斜縄文(RL)	I-2-C	168	"
-60	D-102	I 口縁部	押引割突、側面瓦痕(RL)	I-2-C	544	同一個体
-61	D-102	I 胴部	押引割突、側面瓦痕(RL)	I-2-C	542	"
-62	D-102	I 胴部	押引割突、側面瓦痕(RL)	I-2-C	543	"
-63	B-99	Ⅲ 口縁部	押引割突、縄文(RL)	I-2-C	532	
-64	F-103	Ⅲ 口縁部	押引割突、縄文(RL)、口唇部押引割突	I-2-C	226	
-65	G-101	I 口縁部	押引割突、側面瓦痕(R)、口唇部縄文(RL)	I-2-C	268	同一個体
-66	F-101	I 胴部	押引割突、側面瓦痕(R)	I-2-C	573	"
-67	F-101	I 胴部	押引割突、側面瓦痕(R)	I-2-C	512	"
-68	B-101	I 胴部	押引割突、側面瓦痕(R)	I-2-C	531	"
-69	F-102	Ⅱ 胴部	押引割突、縄文(RL)	I-2-C	593	
図23-70	F-103	Ⅲ 口縁部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	741	同一個体
-71	F-103	Ⅲ 口縁部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	767	"
-72	F-103	Ⅲ 口縁部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	766	"
-73	F-103	Ⅲ 口縁部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	147	"
-74	F-103	Ⅱ 胴部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	780	"
-75	F-103	Ⅱ 胴部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	768	"
-76	F-103	Ⅲ 胴部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	769	"
-77	F-103	Ⅱ 胴部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	748	"
-78	F-103	Ⅱ 胴部	沈線、縄文(RL)	I-2-D	759	"
-79	D-104	I 胴部	燃灰縄文(RR)、沈線	I-2-E	781	
-80	D-103	I 胴部	燃灰縄文(RR)	I-2-E	778	
-81	D-104	I 胴部	燃灰縄文(RR)	I-2-E	285	
-82	D-104	I 胴部	燃灰縄文(RR)	I-2-E	735	
-83	D-103	I 胴部	燃灰縄文(RR)	I-2-E	20	
-84	E-104	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	561	
-85	E-104	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	560	
-86	B-99	I 胴部	燃灰縄文(LL)	I-2-E	527	
-87	F-103	Ⅲ 胴部	燃灰縄文(LL)	I-2-E	150	
-88	G-104	Ⅲ 胴部	燃灰縄文	I-2-E	617	
-89	F-104	Ⅲ 胴部	燃灰縄文	I-2-E	744	
-90	F-104	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	745	
図24-91	F-104	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	510	
-92	C-102	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	688	
-93	C-102	I 胴部	燃灰縄文	I-2-E	687	
-94	D-104	I 胴部	燃灰縄文(RR)、沈線	I-2-E	734	
-95	D-104	Ⅱ 胴部	燃灰縄文(LL)、沈線	I-2-E	34	
-96	C-100	Ⅲ 胴部	縄文(RL)	I-3	740	内面装文付着
-97	E-103	I 口縁部	単軸絡糸体第1類(RL)、口唇部縄文(RL)	I-3	114	同一個体
-98	E-103	I 口縁部	単軸絡糸体第1類(RL)、口唇部縄文(RL)	I-3	433	"
-99	F-103	Ⅲ 口縁部	単軸絡糸体第1類(RL)、口唇部縄文(RL)	I-3	208	"
-100	F-103	Ⅲ 胴部	単軸絡糸体第1類(RL)、縄文(RL)	I-3	576	"
-101	E-103	I 胴部	単軸絡糸体第1類(RL)、縄文(RL)	I-3	510	"
-102	F-101	I 口縁部	斜縄文(RL)	I-3	158	
-103	C-104	I 口縁部	斜縄文(RL)	I-3	48	
-104	F-101	I 口縁部	斜縄文(RL)	I-3	763	
-105	A-101	Ⅱ 口縁部	縦光縄文(RL)、口唇部結節瓦痕	I-3	2	
-106	A-101	Ⅱ 口縁部	縦光縄文(RL)、口唇部結節瓦痕	I-3	764	
-107	B・C-100	Ⅲ 口縁部	縄文(RL)、口唇部刻目	I-3	38	
-108	F-103	Ⅲ 口縁部	縄文(RL)	I-3	230	
-109	C-102	I 口縁部	縄文(RL)	I-3	50	
-110	G-104	Ⅱ 口縁部	縄文(RL)	I-3	272	
-111	B-104	Ⅲ 胴部	斜縄文(RL)	I-3	555	
-112	G-104	Ⅲ 胴部	斜縄文(RL)	I-3	736	

図版番号	出土地点	層 部 位	施 文 文 様	分 類	整理番号	備 考
図24-113	C-104	I 胴部	斜織文(RL)	I-3	725	
-114	D-102	I 胴部	縦杉状織文	I-3	732	
-115	G-104	I 胴部	斜織文(RL)	I-3	302	
図25-116	C-102	I 胴部	斜織文(RL)	I-3	724	
-117	B-99	III 胴部	織文(LR, 0段多条)	I-3	533	
-118	F-102	II 胴部	縦杉状織文	I-3	574	
-119	F-103	III 胴部	縦杉状織文	I-3	283	
-120	F-103	II 口縁部	織文(RL)	I-4	185	
-121	F-103	II 口縁部	単軸絡糸体第1A類(RL)、口唇部側面庄痕(RL)	I-4	181	
-122	G-100	I 口縁部	単軸絡糸体第1類(RL)縦位、口唇部押引割突	I-4	303	
-123	F-101	III 口縁部	単軸絡糸体第1類(RL)横位、口唇部割目	I-4	203	
-124	G-100	I 胴部	織文(RL)、結節回転文	I-4	284	
-125	G-100	I 胴部	織文(RL)、結節回転文	I-4	610	
-126	F-103	II 胴部	織文(RL)	I-4	196	
-127	F-105	I 胴部	織文(RL)	I-4	586	
-128	G-101	III 胴部	織文(LR)	I-4	631	
-129	G-101	III 胴部	織文(LR)	I-4	632	
-130	E-103	I 胴部	織文(RL)	I-4	554	
-131	E-104	I 胴部	織文(RL)	I-4	562	
-132	F-104	III 胴部	織文(RL)	I-4	578	
-133	F-104	III 胴部	織文(RL)	I-4	592	
-134	C-102	I 胴部	織文(RL)	I-4	664	
-135	C-102	I 胴部	織文(RL)	I-4	515	
-136	A-100	II 胴部	織文(LR)	I-4	652	
-137	B-100	III 胴部	織文(RL)	I-4	743	
-138	C-103	III 胴部	織文(RL)	I-4	70	
-139	F-103	I 胴部	織文(RL)	I-4	581	補修孔
-140	F-104	III 口縁部	表裏織文(RL)	I-4	605	
-141	G-104	III 口縁部	表裏織文(RL)、口唇部側面庄痕(L)	I-4	274	
-142	G-104	III 胴部	表裏織文(RL)	I-4	622	
-143	G-104	III 胴部	表裏織文(RL)	I-4	620	
-144	G-104	III 胴部	表裏織文(RL)	I-4	623	
-145	B-97	I 胴部	表裏織文(RL)	I-4	643	
図26-146	G-104	III 胴部	表裏織文(RL)	I-4	639	
-147	B-97	I 胴部	表裏織文(RL)	I-4	640	
-148	B-97	I 胴部	表裏織文(RL)	I-4	641	
-149	B-97	I 胴部	表裏織文(RL)	I-4	642	
-150	B-97	I 胴部	表裏織文(RL)	I-4	621	
-151	F-104	III 胴部	表裏織文(RL)	I-4	607	
-152	E-103	I 底部	織文(RL)	I-4	434	
-153	F-G-101	I 底部	織文(RL)	I-4	444	
-154	C-102	I 底部	織文(RL)	I-4	376	
-155	E-103	III 底部	織文(LR)	I-4	435	
-156	D-101	III 底部	織文(RL)	I-4	346	
-157	B-100	III 底部	織文(RL)	I-4	742	
-158	G-101	I 底部	織文(RL)	I-4	490	
-159	E-103	I 底部	織文(RL)	I-4	407	
-160	G-102	III 底部	織文(RL)	I-4	504	
-161	G-102	III 底部	織文(RL)	I-4	503	
-162	F-104	III 底部	織文(L)	I-4	480	
-163	F-103	II 底部	結節回転文、割突	I-4	463	
-164	G-100	I 底部	織文(LR)、結節回転文	I-4	492	
-165	C-101	I 底部	織文(L)	I-4	514	尖底
-166	F-103	II 口縁部	沈線文(縦位)、口唇部割目	II	149	
-167	G-101	口縁部	織文(RL)	II	156	内面炭化物付着
-168	F-103II	口縁部	単軸絡糸体第1類(R)	II	199	

図版番号	出土地点	層 部 位	施 文 文 様	分 類	整理番号	備 考
図26-169	D-102	I 口縁部	縄文(L,R)、斜沈線、口唇部刺突	II	89	
図27-170	F-104	II 口縁部	押引刺突	II	242	内面炭化物付着
-171	D-104	I 口縁部	縄文(R,L)、隆帯(押引刺突)	II	110	
-172	F-103	III 胴部	縄文(R,L)、側面片痕(R,L)	II	205	
-173	B-100	III 胴部	単軸絡糸体第1類	II	755	
-174	F-104	I 胴部	結節回転文、幾何帯(指頭片痕)	II	585	内面剥落
-175	F-104	I 胴部	縄文(R)、側面片痕(R・鋸歯状)	II	591	
-176	F-103	III 胴部	単軸絡糸体第1類(L)	II	626	内面炭化物付着
-177	85左1	I 胴部	沈線、磨消縄文	II	281	
-178	E-104	I 胴部	縄文(L,R)、透弧文	II	572	
179	D-104	II 胴部	縄文(R,L)、透弧文	II	689	
-180	F-103	III 底 部	縄文(R,L)、沈線、刺突	II	482	
181	E-103	I 底 部	縄文(R,L)	II	351	
-182	C-86	I 底 部	無文	II	365	

2 石 器

今回の調査では、石器は剥片素材石器419点、礫素材石器57点が出土した。このほかには、搬入されたと考えられる礫や、剥片が出土している。紙面の都合から完形品を中心に、特徴的な石器だけを図化した。他の石器については、観察表に記載している。

石 鎌 (図28-1~17)

17点出土した。1~12は無茎凹基の石鎌で、形状的には逆V字状である。1~8は袈りを大きく作出しており、このうち1~3は特に袈りの度合いが大ききものである。9~12は袈りが浅く、11・12は平基に近いものである。この種では、基端のかえし部分が小さく欠失しているものが4点あり、ともに1端だけを欠いている。

13~15の3点は無茎平基の石鎌である。凹基のものが器体の最大幅を基部端に持つのに対し、この種の3点は全体に細身で、最大幅を器体の中央寄りに持つ。

16は有茎平基の石鎌で、非常に細身のものである。基部はごく小さく作出され、器体全体も非常に細かな剥離によって調整されている。稜及び側縁は全体に磨滅(風化)している。石材は他の石鎌と同様に珪質頁岩であるが、やや軟質である。

17は茎部が太めに作出された有茎平基の石鎌で、茎部全体にアスファルトの付着が認められる。

有茎鎌の2点は、他の石鎌が重量が2g未満なのに対しそれぞれ2.9g、2.6gと重い。

石 錐 (図29-18~33)

16点の出土である。器体の形状によって2類に大別した。

A類：器体が尖頭器状のものを一括した。18・19は石槍の基部とも考えられるが、槍の類が出土していないことから本類とした。ともに全面にわたって器体整形が行われている。

20~27は先端部がやや湾曲気味のもので、23~27は先端部が薄手である。28はやや幅広のつまみ状の基部をもつもので、先端部は両面から細かい調整が行われている。29は小型であり、形状的には石鋸状石器に類似するが、先端部の調整が両面から行われ先細に加工されていることから、本類とした。

B類：器体が特殊なものを一括した。

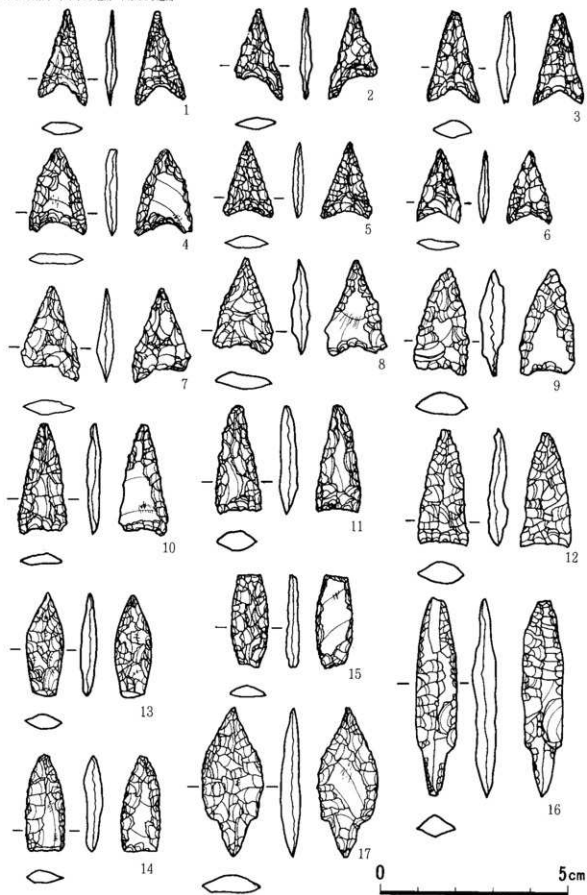


图28 石器-1 (石鏃)

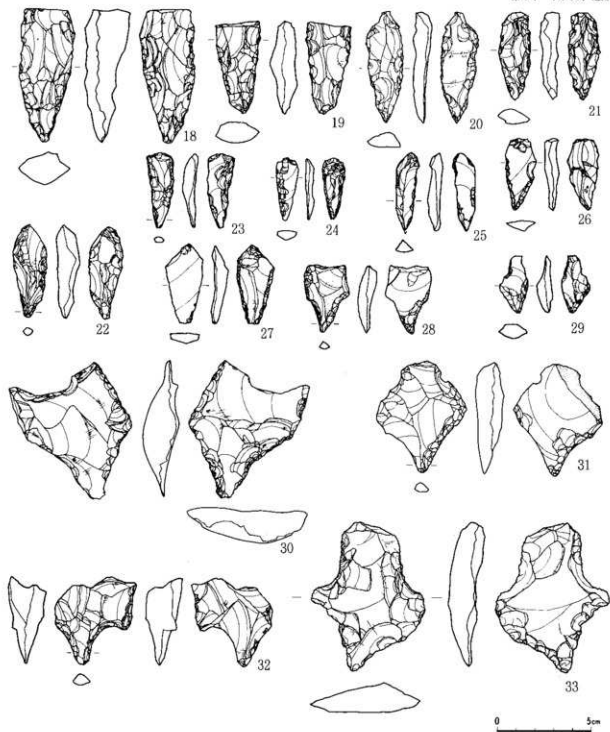


图29 石器-2 (石錐)

4点出土している。本来、不定形石器として扱う類かもしれないが、形状に類似性が認められ、太めの錐の用途が考えられたことから本類とした。

肉厚の突起を有しており、突起から延長される側縁は、一方が大きく開き、他方はより鋭角な角度を有している。側縁部の調整剝離もていねいなことから、スクレーパー的な用途と刺突具の用途を併用したものかもしれない。類似した石器では石銛状石器が存在するが、先端部からの側縁の角度などに類似点はあるが、先端部が本類が突起となるのに対し、弧状を呈する大きな相違点がみられる。

本類も形状的に細かな違いが認められることから、今後、類似資料の増加によって細分されるものと考えられる。

石筥 (図30-34～図35-88)

定形石器中もっとも多く出土したものである。刃部の形状を中心に、器体の形状を加味しながら分類を行った。

A類：刃部調整のみられないものをこの類とした。

34・35は表裏両面の刃部調整を行っておらず、ともに1次剝離面を残している。1は刃部先端にごく小規模の微細剝離と潰れが認められる。

B類：平刃のものを一括した。

36～42は側縁が直線的なもので、左右対称のものである。43～54はやや器体が傾いているもので、左右非対称である。55～59は器体の形状が三角形ないしは五角形のものである。

C類：円刃または偏刃のものを一括した。

60～62は側縁が直線的なもので、刃部の丸みもより少ないものである。

63～67は側縁が丸みを帯び、片方の側縁がやや湾曲気味の略丁字状のものである。これらはほとんどが偏刃である。

D類：明瞭な基部を作出しているものを一括した。

71～79は刃部が平刃またはやや丸みを帯びたもので、形状は盤形に類似する。

80～88は円刃または偏刃で、基部以外は全体に円形に近い。85はやや盤形で基部が長目に作出されている。88は基部と刃部の境が不明瞭である。この類は全体に非対称である。

器体調整はA～C類までは、主に刃部と側縁部になされておられ、側縁部の刃部寄りの3分の1から中心部までに顕著にみられる。基端側はあまり細かい調整は行われていないが、基端に敲打痕がみられるものがあり、楔的な打撃が加えられた可能性がある。

側縁部は、調整の密な部分に潰しがみられるものが多く、この部位に柄などの装着がなされたものと考えられる。

刃部は、主に片面側からの調整が行われており、裏面には1次剝離面を残すものが多い。

刃部角は同一器体上においても、測定位置の調整剝離の度合いによって数度の違いがみられるが、大体55度～74度に集中している。薄手のものについては40度程度のもも数点みられる。

刃部の損傷は、主に刃部中央部に多くみられるが、円刃の場合は一定しておらず、偏刃としたものの多くは、損傷によってこの刃部形状になったものが少なくない。

器体の損傷位置は、折損資料では、先に述べた装柄位置と考えられる部分の上下部分での折損がみ

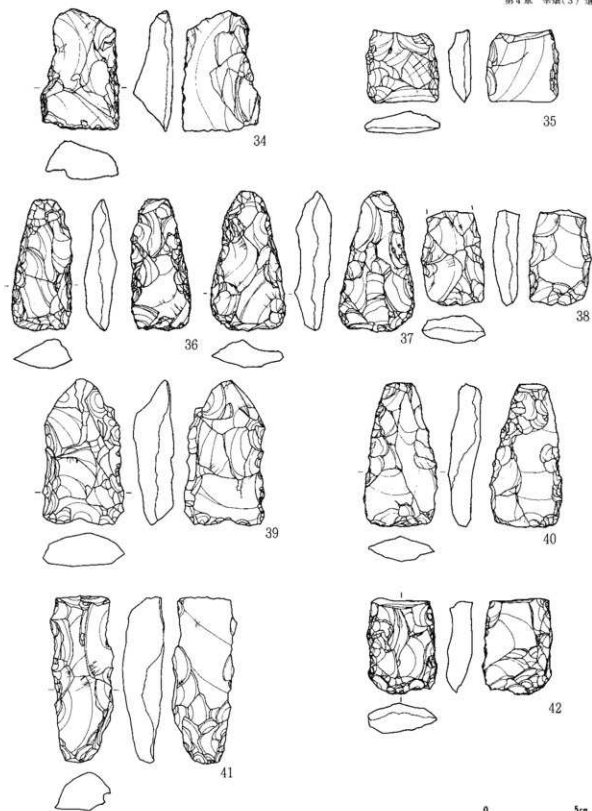


图30 石器-3 (石鏃)

平刃(10)遺跡・平刃(6)遺跡・平刃(3)遺跡

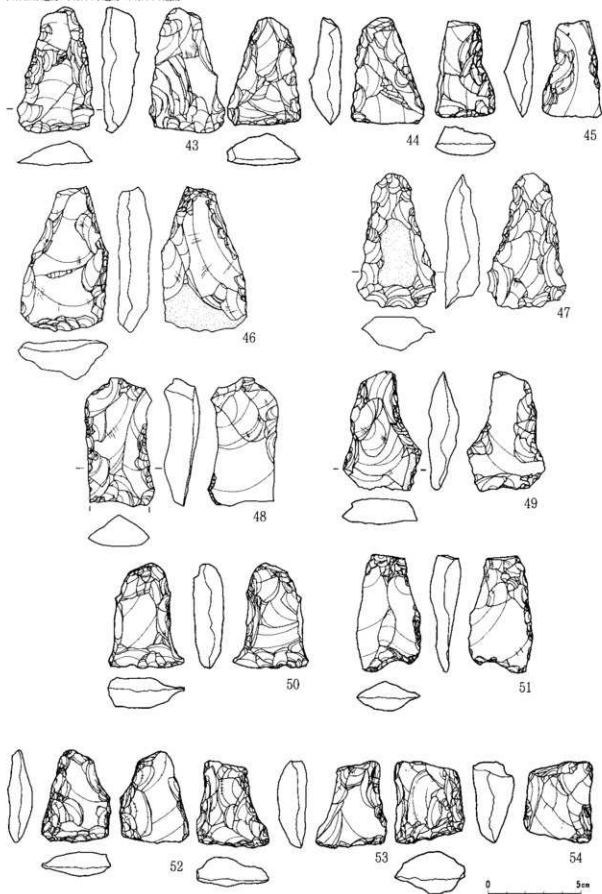
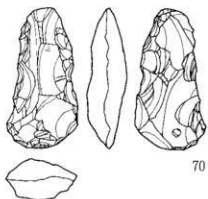
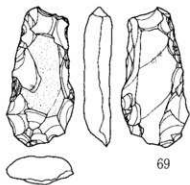
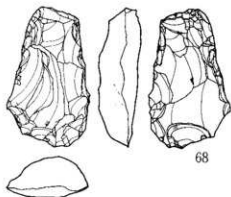
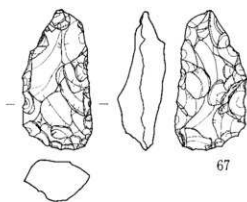
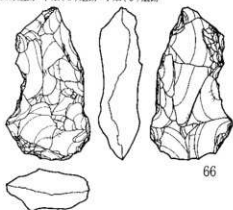


图31 石器-4



图32 石器-5 (石薙)

李碩(10)遺跡・李根(6)遺跡・李碩(3)遺跡



0 5cm

圖33 石器-6 (石薙)

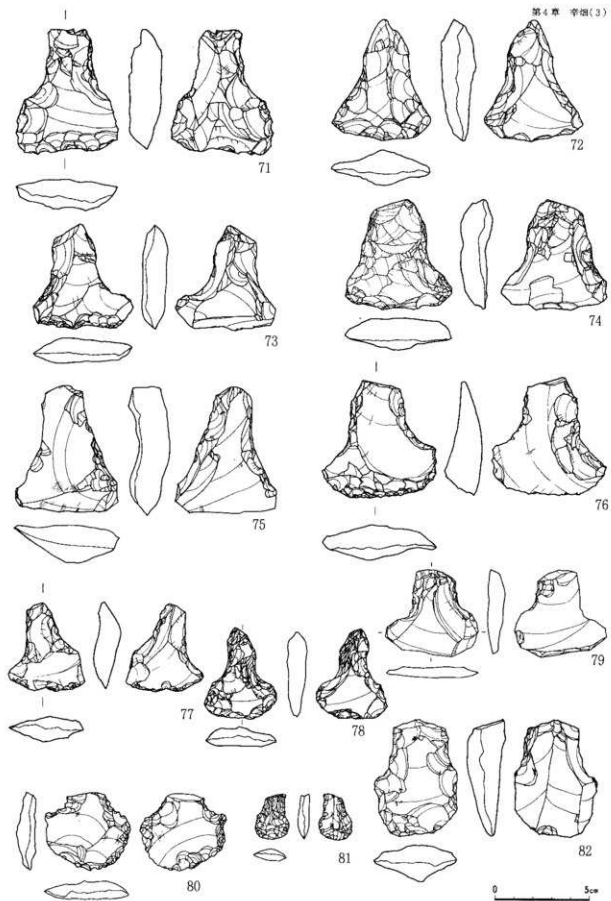


图34 石器-7 (石笕)

辛畑(10)遺跡・辛畑(6)遺跡・辛畑(3)遺跡

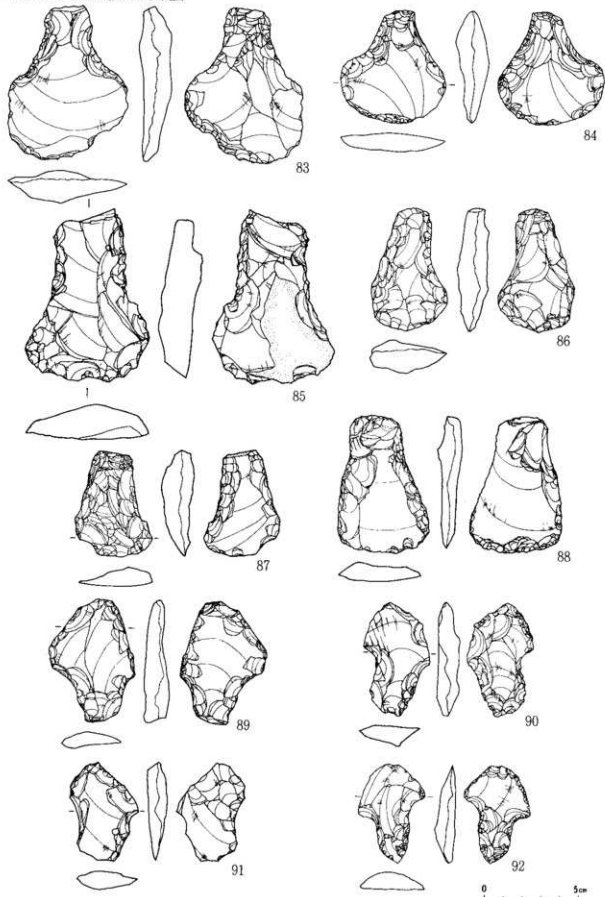


图35 石器-8 (石斧)

られ、D類では不定形石器に含めた数点がこの基部片と考えられ、刃部との境界部分で折損している。基端部では角が欠損しているものがみられる。また、不定形石器とした中に本類の縦割れによる破片と考えられるものが数点(図40-153等)ある。

D類のような形状の小型のものは、従来、中期末から後期に前半にかけての段間型石筥として分類されてきたが、近年及び今回の出土例などから、類似した形状の大型のものも存在することが理解されてきた。器体調整などの点から小型のものとはやや趣を異にし、規模的な面からも機能にやや相違があるものと考えられる。今後刃部形状などから細分されるものと考えられるが、共存した土器の時期から縄文時代早期後半期から前期初頭期における一形態と理解したい。ただ、80・81などは縄文時代後期のものと考えられる。

石鋸状石器 (図35-89~92)

4点出土している。89~91は側縁の一方を抉り込んで湾曲部を作出しており、他方の側縁は直線的である。器体全体に細かな調整はみられず、全体に雑な作りである。刃部は主に片面からの調整で、軽易なスクレーパー状の調整である。92は基部と刃部の境に、大きく返しを作出しているもので、刃部は片面からの調整である。

使用法は不明であるが、89・91の刃部には刃こぼれと潰れがみられる。90・92は微細な刃こぼれが確認される。また、89は刃部先端の欠損部に剝離による稜が、研磨されたようにすり減っており、光沢がみられる。表館遺跡出土のものも、同様の整形及び調整技法によっており、鋸という名称の示す刺突具としての用途とは、異なる機能を持つ石器と考えられる。

不定形石器 (図36-93~図41-163)

不定形石器としたものは、327点出土しており、これには定形石器の破片と考えられるものも少なくない。本報告書においては紙面の都合により、記載数量を限定せざるをえなかったため、より機能の明確なものを中心に特徴的なものを選別した。このため、部分的または軽易な調整だけのみられるものや刃こぼれ状の痕跡だけのものは記載していない。

93~96は石匙に酷似する石器である。石匙としての分類も可能であるが、つまみ作出における抉りをもたないことから本類とした。ただ、基部と刃部の境界は明瞭に区分されており、刃部の調整も石匙と同等である。基部の機能が石匙と異なっていたものか一時的な相違なのかは不明であり、また時期も特定できない。97・98は石筥のD類としたものと形状的には類似しているが、素材がより薄手で刃部調整が異なることからスクレーパーの類とした。99・100は小型のスクレーパーと考えられる。

101は石鎌の尖頭部破片の可能性があるが、折損部から大きく開くことから断定し得ない。102~103は刃部または基部の折損品と考えられる。106は楔形石器である。このほか数点の出土がみられた。一端部は薄目の剝離面が存在し、他端部は肉厚で鈍角の剝離面と潰れが認められる。107~111は基部破片で、石筥D類などの基部と考えられ刃部との境界部分で折損している。

112~141はスクレーパー類としたものである。112~124は一方または両方のほぼ直線的な側縁を機能面としているもので、119・120は側縁と一端部に調整が加えられているものである。125・129は湾曲する側縁を機能部とするもので、130~131は抉り状の内湾部を機能部としており、132~134は湾曲

辛垭(10)遺跡・辛垭(6)遺跡・辛垭(3)遺跡



图36 石器-9 (不定形石器)

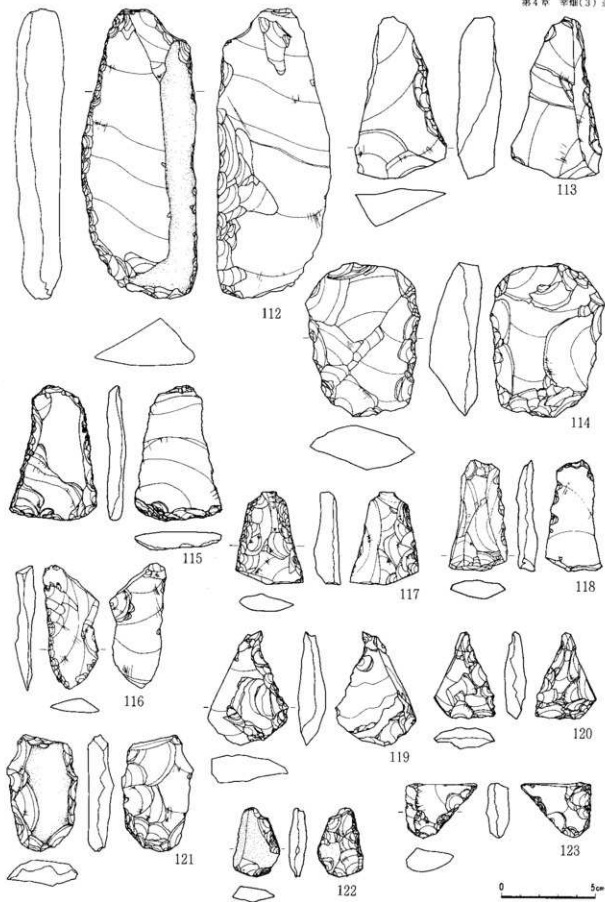


図37 石器-10 (不定形石器)

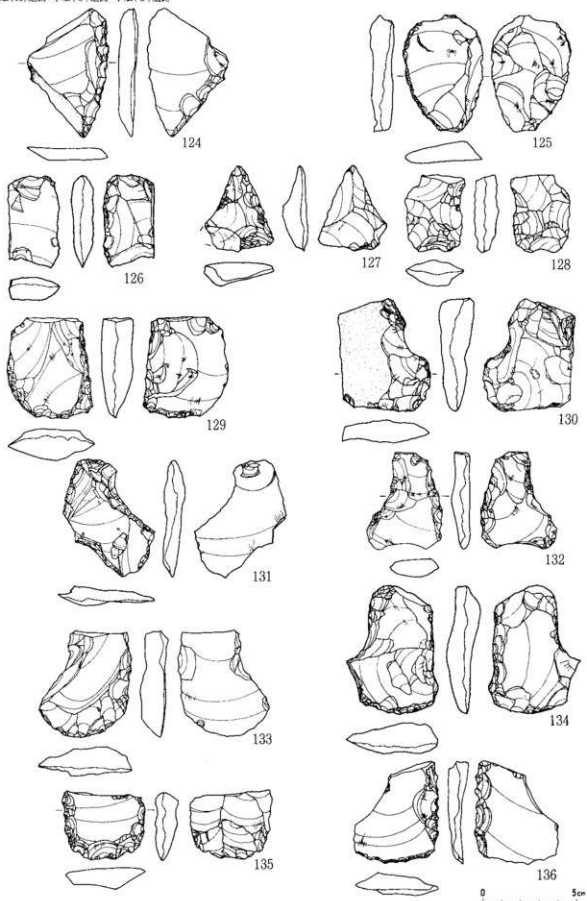


图38 石器-11 (不定形石器)

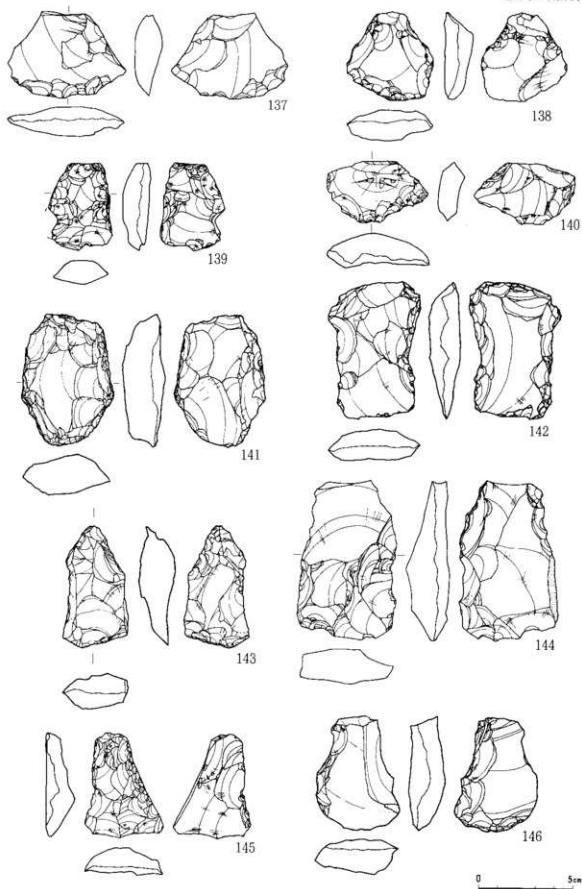


图39 石器-12 (不定形石器)

半燧(10)遺跡・半燧(6)遺跡・半燧(3)遺跡

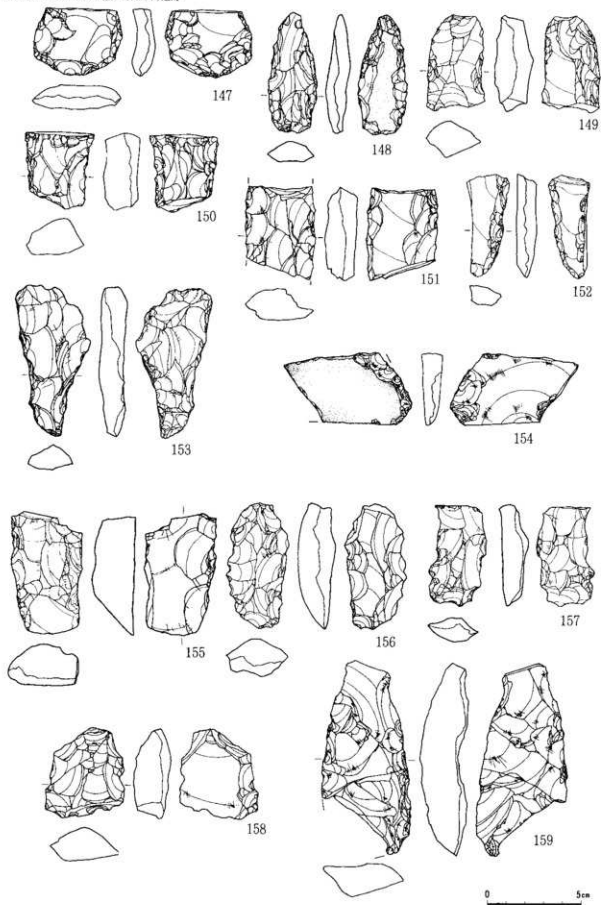


圖40 石器-13 (不定形石器)

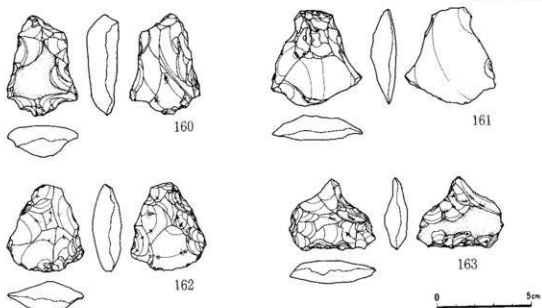


圖41 石器-14 (不定形石器)

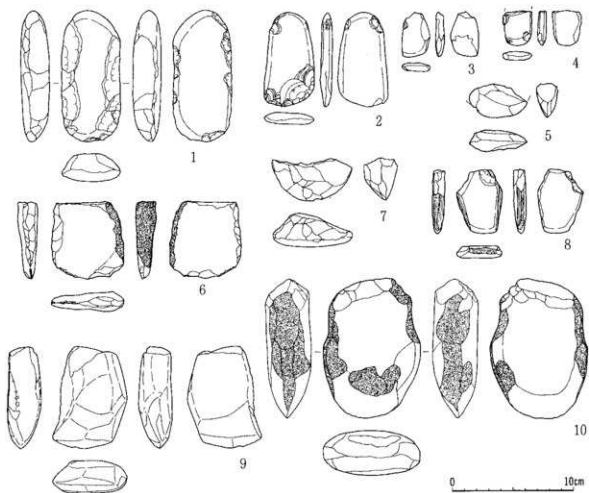


圖42 石器-15 (石斧)

部と側縁または端部の両者を機能部としている。135～140は主に端部を機能面としている。

142～147は端部の状態から石筥に類似した調整または形状を呈しているもので、器体調整が不明瞭なことから不定形石器とした一群である。148～155は器体整形を行っているが、明瞭な刃部調整にいたっていないものである。150・151は石筥の部分破片、153は欠損品の可能性が高い。

156～163は器体の整形途中のものと考えられる。

石斧 (図42-1～10)

1・2・7は打製石斧である。1は主に片面を打ち欠いて、器体成形と刃部成形を行っており、表裏面に自然面を多く残している。刃部は鈍角である。2は小判形の偏平な礫を素材として、刃部だけを片面から作出している。いわば局部打製石斧である。7は刃部の破片で片面加工である。

6は一端が薄い偏平な自然礫を素材として、片側縁に敲打による潰しを、他側縁は剝離によって成形している。刃部は片側縁寄りを打ち欠いており、全体に潰れが認められる。明瞭な刃部成形を行っていないが、本類とした。

3～5・8・9・10は磨製石斧で、3～5は刃部破片である。6は擦切磨製技法によるもので、側縁に擦切痕が磨消されずに残っている。また、刃部や側縁に潰れが認められる。

9・10は非常に特殊な石斧である。9は器体自体がJ字状に湾曲気味で、刃部をもつとも湾曲した端部に作出されている。ほぼ全面研磨によっており、数個の研磨面の集合により刃部が作出されている。10も同様な研磨面の構成による刃部をもつもので、基部側の刃部との境には、把握部と考えられる潰し加工が行われている。この2点は石材も軟質であり石斧として機能しないものと考えられる。スリを主体とした何らかの加工に供する道具で、最終的にこの形状になったものと考えられる。

スリ石 (図43-11～図46-39)

29点出土している。

11～28・31は三角柱状磨石で、肉厚で、断面が概ね三角形の礫を素材としている。11は2面と1端部を機能面としている。機能面の側縁部には使用に伴う剝離痕が認められる。また、スリ面以外の2箇所を敲打部として使用しており、凹みにまで至らない敲打痕が認められる。12は2稜を、13・14は1稜を機能面としており、ともに使用による剝離痕は認められない。15～18は機能面の側縁に使用による剝離痕をもつもので、15は1端部にもスリによる痕跡がみられる。18は手掛かりとするためか機能部の側縁を大きく打ち欠いている。

19・21は1稜を機能面とし、平坦な面を敲打部として使用している。20は機能面と連続した研磨面が構成されている。22～28・31は1稜を機能面としているもので、断面が台形状の24は非常に幅広い機能面をもっている。26は端部に敲打痕が認められる。

29・30・32～35はやや偏平な小判形の礫を素材とし、主に1側縁を機能面としている。29・33は平坦な面に敲打痕が認められ、33は端部にまで敲打を伴うスリ面が延びている。

36・37はやや丸みを帯びた礫を素材としているものである。38は側縁を機能部としているが、端部を弧状に打ち欠いているものである。39は硬質の半円形の礫で、弧のごく一部に小規模なスリ面が認められる。

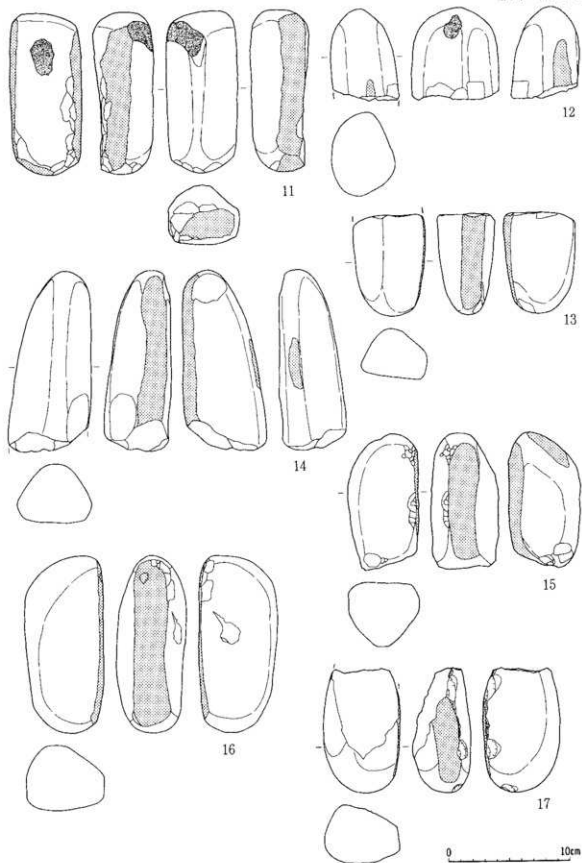


図43 石器-16 (スリ石-1)

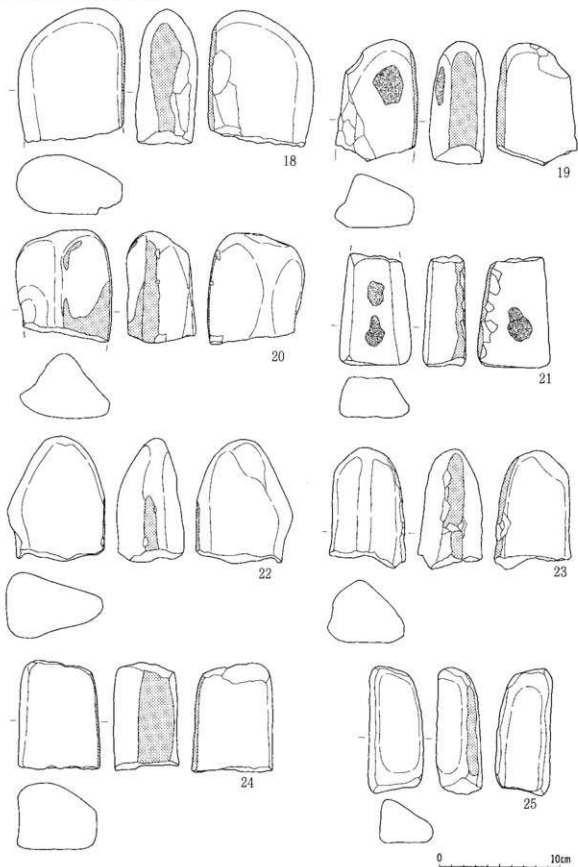


図44 石器-17 (スリ石-2)

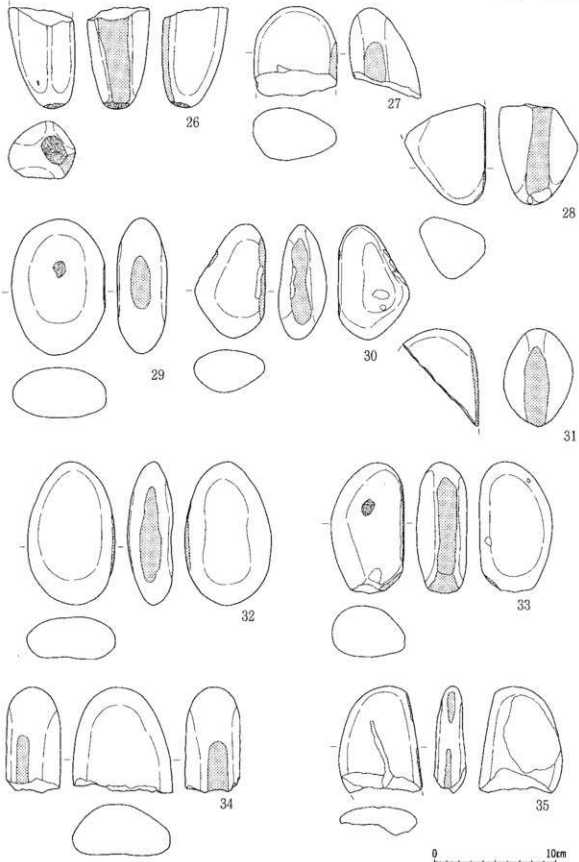


図45 石器-18 (スリ石-3)

幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡

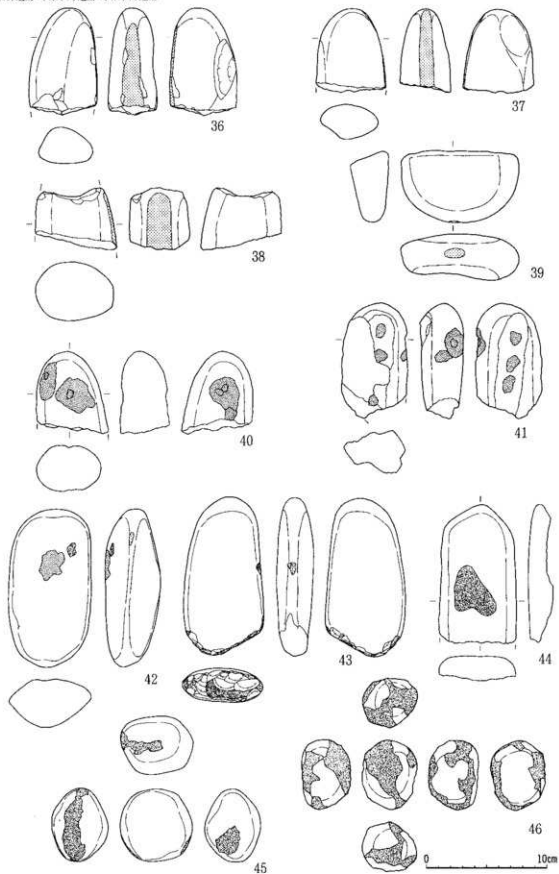


図46 石器-19 (スリ石・凹石・敲き石)

これらの時期は、11～28・31の三角柱状磨石は、縄文時代早期から前期の土器に共存することから、今回出土のものは、出土土器から早期後半期のものと考えられる。また、29などの偏平なものは、土器の出土がほとんど認められないが、これまでの出土例から縄文時代中・後期のものの可能性が高い。

凹み石 (図46-40～42)

3点出土している。40は欠損品で、肉厚の礫の2面を機能面として使用しており、両面同程度の使用頻度である。41は縦割れもみられる欠損品で、3面を機能面としているが、欠損した1側縁も使用した可能性がある。42は硬質の礫を素材として、もっとも平坦な面を機能面としている。凹みは浅く、強い敲打痕程度である。側面の一部に小範圍のスリがみられる。

敲き石 (図46-43～図47-50)

8点出土した。43は一端部を打ち欠いてから、敲打具として使用したと考えられる。機能面には数度にわたる敲打による剝離が認められる。44は欠損品で片面に広範圍の敲打による荒れがみられる。裏面は剝離している。45・46は小型の円礫を部分を特定せずに使用しており、46はほぼ全面にわたって敲打痕が認められる。45の機能面は、スリを伴った敲打の痕跡である。2点とも重量感のあるチャート素材としている。47はやや大型の円礫を使用し、主に側面を機能面としている。機能面にはスリを伴った敲打痕がみられる。48・50は偏平な礫の側縁と端部に45などと同様のスリを伴う敲打痕がみられる。49は一端が細い棒状の礫を素材とし、この細身の端部を機能面としている。機能面は使用頻度が高く、丸みを帯びた面を形成している。面の縁辺部には、使用による剝離が連続してみられる。

その他の礫石器 (図47-51～54)

51は擦切具の欠損品と考えられる。板状節理の薄手の礫を素材とし、側縁を機能部としている。機能部の先端は、両面からほぼ均等な傾斜をもつスリ面となっている。擦切によるものと考えられる面の幅は最大2cmである。

52は硬質の礫の一端に剝離による打ち欠きを行っているもので、側面にスリの痕跡と、他方の端部に敲打痕がみられる。局部的な打製石斧または礫器的な用途が考えられる。欠損品の再加工の可能性も考えられる。53も同様に端部に剝離を加えているものであるが、先端部に潰れが若干認められるだけで、他に使用痕跡は認められない。

54は石皿の完形品で、片面のほぼ全面に使用痕跡が認められるが、中央部が特に使用頻度が高く、湾曲している。

円盤状石製品

図48は、偏平な円礫のほぼ全面を研磨しているもので、特に側縁を研磨し、断面形状が台形状に作出されている。砂岩製である。

石製品はこの1点のみの出土である。



図47 石器-20 (敲き石・その他の石器)

今回の調査での出土石器は、圧倒的に剥片素材の石器が多く、礫素材石器は57点にすぎなかった。石器の組成では、不定形石器を除いては石筥の出土量がもっとも多く、スリ石がこれに続いている。使用石材の石質では、剥片石器が多いことから珪質頁岩がもっとも多い。

石器の時期は、出土土器の大部分を占める縄文時代早期後半から前期初頭にわたるものと考えられるが、このほかに、これまでの出土例から縄文時代中期から後期のもと考えられる石器の出土がみられる。土器の担当者からは当該時期の土器が、数片程度の出土しかないとのことであったが、石器の器種や出土点数からは、これらの石器をとまなう時期の集落の存在が推察され、細片化した土器破片中にも当該時期の土器片の存在した可能性が考えられる。

(白島 文雄)

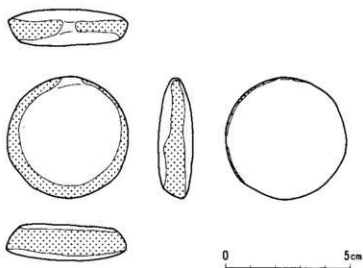
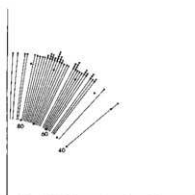


図48 円盤状石製品

石莚等の刃部角



刃部角一点数

40度 - 1点	63度 - 3点	74度 - 2点
48度 - 1点	65度 - 1点	75度 - 1点
53度 - 2点	66度 - 1点	76度 - 1点
54度 - 1点	67度 - 1点	77度 - 1点
55度 - 3点	68度 - 2点	78度 - 1点
57度 - 2点	69度 - 3点	79度 - 1点
58度 - 3点	70度 - 5点	82度 - 1点
59度 - 1点	71度 - 2点	83度 - 1点
60度 - 1点	72度 - 3点	86度 - 1点
61度 - 1点	73度 - 3点	88度 - 1点
62度 - 4点		

石器組成

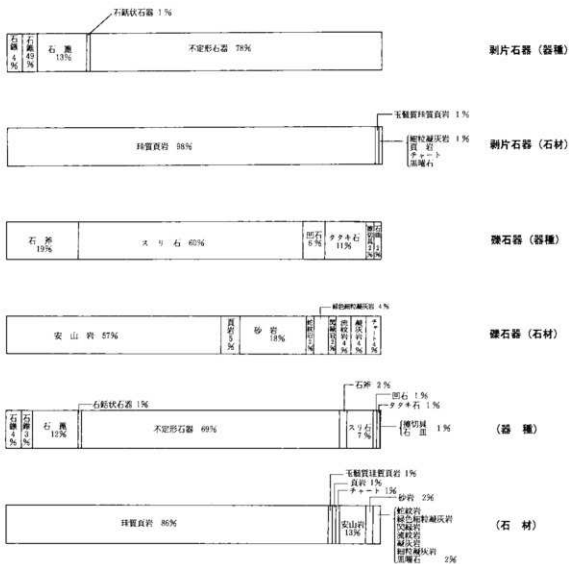


図49 石莚等の刃部角及び石器組成

削片石器計測表

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号		
図28—	1	G-102	I	25.0	12.5	3.0	0.6	珉質頁岩	石鏢・無凹		91	
	2	D-104	I	24.0	12.0	3.0	0.5	珉質頁岩	“ “ “		92	
	3	F-103	II	(24.0)	12.5	5.0	(0.9)	珉質頁岩	“ “ “		93	
	4	C-98		22.5	15.0	2.5	0.8	珉質頁岩	“ “ “		96	
	5	E-100	I	20.0	17.5	3.0	0.5	珉質頁岩	“ “ “		94	
	6	D-104	I	19.0	11.5	2.5	0.4	珉質頁岩	“ “ “		95	
	7	F-104	I	20.0	15.0	4.0	0.9	珉質頁岩	“ “ “		97	
	8	F-103	I	25.0	16.0	5.0	0.9	珉質頁岩	“ “ “		98	
	9	G-103	I	28.0	14.0	6.0	1.8	珉質頁岩	“ “ “		99	
	10	F-101	I	29.5	13.0	3.5	0.9	珉質頁岩	“ “ “		100	
	11	D-104	II	31.0	13.0	5.0	1.5	珉質頁岩	“ “ “		101	
	12	表採		28.5	12.0	5.0	1.6	珉質頁岩	“ “ “		102	
	13	E-101	I	27.0	9.5	4.0	1.0	珉質頁岩	“ “ 無平		103	
	14	B-99	III	25.5	10.5	4.0	1.1	珉質頁岩	“ “ “		104	
	15	E-101	I	(24.5)	10.0	3.0	(0.8)	珉質頁岩	“ “ “		105	
	16	F-104	I	52.5	9.5	6.0	2.9	珉質頁岩	“ “ 有平		106	
	17	D-104	I	39.5	16.0	4.5	2.6	珉質頁岩	“ “ “		107	
18	B-101	III	71.0	28.5	22.0	38.8	珉質頁岩	石鏢・A類		11		
図29—	19	A-102	II	(49.0)	(24.0)	(12.0)	(13.5)	珉質頁岩	“ “ “		9	
	20	A-102	II	59.5	20.0	9.5	9.0	珉質頁岩	“ “ “		8	
	21	D-102	II	46.0	16.5	9.5	6.5	珉質頁岩	“ “ “		15	
	22	C-98	IV	49.0	17.5	11.5	9.0	珉質頁岩	“ “ “		13	
	23	F-103	IV	39.0	14.5	6.0	3.1	珉質頁岩	“ “ “		19	
	24	F-101		36.0	15.0	5.0	1.7	珉質頁岩	“ “ “		269	
	25	E-103	I	(41.0)	11.0	6.5	(2.6)	珉質頁岩	“ “ “		310	
	26	C-100	I	37.0	16.5	6.0	3.1	珉質頁岩	“ “ “		14	
	27	G-104	III	41.0	19.5	7.5	5.0	珉質頁岩	“ “ “		21	
	28	E-102	III	35.5	23.0	8.5	6.1	珉質頁岩	“ “ “		304	
	29	F-102	I	30.0	15.0	7.5	2.2	珉質頁岩	“ “ “		303	
	30	D-104	I	64.0	72.5	18.0	45.3	珉質頁岩	“ “ B類		266	
	31	E-103	I	59.0	47.5	13.5	29.8	珉質頁岩	“ “ “		268	
	32	F-103	III	42.5	46.0	18.0	20.6	珉質頁岩	“ “ “		265	
	33	D-102	I	79.0	61.0	20.0	50.9	珉質頁岩	“ “ “		263	
	図30—	34	B-99	I	64.0	43.0	21.0	44.4	珉質頁岩	石鏢・A類	刃部角67度	37
		35	B-99	I	36.0	35.5	10.0	20.0	珉質頁岩	“ “ “	刃部角58度	115
36		D-104	II	69.5	32.0	17.0	33.8	珉質頁岩	“ “ B類	刃部角62度	24	
37		D-102	I	74.5	40.0	17.5	45.1	珉質頁岩	“ “ “	刃部角72度	25	
38		E-103	I	50.5	33.5	12.5	28.0	珉質頁岩	“ “ “	刃部角60度	60	
39		B-103	III	77.0	43.5	18.0	81.2	珉質頁岩	“ “ “	刃部角62度	74	
40		E-103	III	76.5	39.0	18.0	45.3	珉質頁岩	“ “ “	刃部角53度	57	
41		F-103	III	38.5	14.5	9.0	4.6	珉質頁岩	“ “ “	刃部角72度	226	
42		B-97	II	(50.5)	36.5	(16.5)	(2.3)	珉質頁岩	“ “ “	刃部角70度	61	
図31—		43	B-102	I	66.5	41.0	20.5	44.5	珉質頁岩	“ “ “	刃部角62度	26
	44	F-104	I	56.5	39.0	17.5	30.7	珉質頁岩	“ “ “	刃部角59度	28	
	45	C-102	I	51.0	32.0	19.0	20.0	珉質頁岩	“ “ “	刃部角48度	31	
	46	D-104	I	78.5	47.5	8.0	62.9	珉質頁岩	“ “ “	刃部角86度	45	
	47	B-101	III	71.5	42.0	18.5	50.1	珉質頁岩	“ “ “	刃部角70度	71	
	48	B-98	I	(68.0)	(37.0)	(17.0)	(9.5)	珉質頁岩	“ “ “	刃部角57度	64	
	49	C-102	I	62.0	42.1	15.5	33.4	珉質頁岩	“ “ “	刃部角69度	30	
	50	E-103	I	55.5	40.5	16.0	38.0	珉質頁岩	“ “ “	刃部角72度	81	
	51	D-102	I	62.0	34.0	15.5	27.9	珉質頁岩	“ “ “	刃部角70度	69	
	52	F-102	III	49.0	36.0	13.0	21.5	珉質頁岩	“ “ “	刃部角57度	309	
図32—	53	D-102	I	44.0	37.5	15.0	25.8	珉質頁岩	“ “ “	刃部角78度	49	
	54	D-102	I	43.0	36.0	22.0	36.3	珉質頁岩	“ “ “	刃部角83度	29	
	55	D-101	I	56.0	47.0	12.5	32.4	珉質頁岩	“ “ “	刃部角70度	50	
	56	G-103	I	63.0	52.5	14.0	34.4	珉質頁岩	“ “ “	刃部角69度	51	
	57	B-100	I	50.0	49.0	10.0	22.3	珉質頁岩	“ “ “	刃部角74度	52	

李爐(10)遺跡・李爐(6)遺跡・李爐(3)遺跡

國版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号	
図32	58	F-104	I	40.5	45.5	10.5	27.7	珪質頁岩	〃	刃部角66度	116
	59	D-102	I	62.5	40.0	14.0	30.9	珪質頁岩	〃	刃部角69度	44
	60	E-98	III	78.0	33.0	16.0	37.9	珪質頁岩	〃・C類	刃部角71度	39
	61	B-99	I	69.5	38.0	17.5	44.6	珪質頁岩	〃	刃部角75度	58
	62	F-104	I	(67.0)	(33.0)	(17.5)	(34.0)	珪質頁岩	〃	刃部角40度	32
	63	B-98	I	74.5	41.5	22.0	60.8	珪質頁岩	〃	刃部角65度	59
	64	B-99	I	89.0	48.0	22.0	102.0	珪質頁岩	〃	刃部角73度	42
	65	B-103	IV	78.5	54.0	21.0	75.1	珪質頁岩	〃	刃部角82度	45
	66	E-102	I	81.0	44.0	21.5	74.0	チャート	〃	刃部角73度	35
	67	B-99	III	74.0	37.0	25.0	53.0	珪質頁岩	〃	刃部角53度	67
図33	68	A-101	II	73.0	44.5	21.0	62.1	珪質頁岩	〃	刃部角68度	34
	69	E-104	I	73.5	35.0	15.0	40.0	珪質頁岩	〃	刃部角55度	40
	70	E-104	I	74.0	37.5	18.0	46.5	珪質頁岩	〃	刃部角58度	27
	71	G-104	I	67.0	54.0	16.0	52.7	珪質頁岩	〃・D類	刃部角63度	86
	72	D-104	I	64.5	51.0	18.5	37.4	珪質頁岩	〃	刃部角73度	53
	73	B-99	V	54.5	51.5	13.0	28.5	珪質頁岩	〃	刃部角74度	48
	74	B-100	II	57.5	55.0	16.5	45.3	珪質頁岩	〃	刃部角88度	54
	75	B-100	II	65.5	50.5	13.5	56.2	珪質頁岩	〃	刃部角55度	62
	76	E-102	III	61.0	60.0	19.0	44.1	珪質頁岩	〃	刃部角76度	55
	77	C-100	IV	47.0	29.0	14.0	15.3	珪質頁岩	〃	刃部角63度	83
図34	78	表様	I	47.5	38.0	10.0	13.2	珪質頁岩	〃	刃部角61度	113
	79	D-102	I	(43.5)	(43.5)	(12.0)	(16.8)	珪質頁岩	〃	刃部角71度	73
	80	D-104	I	(41.0)	45.5	(10.0)	(16.8)	珪質頁岩	〃	刃部角63度	4
	81	F-103	II	(24.0)	18.0	(8.0)	(2.8)	珪質頁岩	〃	刃部角55度	6
	82	A-99	II	63.0	43.0	19.0	42.8	珪質頁岩	〃	刃部角68度	345
	83	B-100	I	83.5	63.5	14.5	68.4	珪質頁岩	〃	刃部角62度	1
	84	F-101	I	60.0	67.0	17.0	43.9	珪質頁岩	〃	刃部角70度	111
	85	B-103	IV	92.0	66.0	23.0	102.6	珪質頁岩	〃	刃部角54度	46
	86	B-103	III	65.0	42.5	16.0	37.9	珪質頁岩	〃	刃部角58度	56
	87	A-101	II	56.5	41.0	16.0	30.1	珪質頁岩	〃	刃部角79度	23
図35	88	B-101	III	72.5	47.0	12.5	40.0	珪質頁岩	〃	刃部角77度	47
	89	F-102	III	65.0	46.0	11.5	28.6	珪質頁岩	石筋状石器	刃部角51度	376
	90	B-100	II	60.0	36.0	11.0	20.0	珪質頁岩	〃	刃部角82度	7
	91	B-97	II	(51.5)	(40.0)	(11.0)	(17.5)	珪質頁岩	〃	刃部角40度	336
	92	B-100	III	52.0	36.0	11.0	14.0	珪質頁岩	〃	刃部角53度	112
	93	F-103	III	87.0	30.0	14.0	30.7	珪質頁岩	不定形石器		233
	94	G-101	I	54.0	26.0	7.5	13.4	黒曜石	〃		77
	95	F-102	I	51.5	26.5	8.0	10.7	珪質頁岩	〃		5
	96	F-103	I	(35.0)	(28.5)	(9.5)	(9.1)	珪質頁岩	〃		305
	97	D-104	I	58.0	49.5	11.0	23.1	珪質頁岩	〃	刃部角54度	3
98	C-102	I	55.0	35.5	9.0	14.6	珪質頁岩	〃	刃部角55度	2	
図36	99	F-105	I	27.0	13.0	5.5	2.0	珪質頁岩	〃	刃部角44度	302
	100	A-98	II	21.5	12.0	4.5	1.3	珪質頁岩	〃		301
	101	G-104	I	(24.0)	(21.0)	(7.5)	(2.9)	珪質頁岩	〃		20
	102	F-103	IV	(33.0)	18.0	(6.0)	(3.8)	珪質頁岩	〃		18
	103	D-104	I	(36.5)	(28.0)	(11.5)	(12.3)	珪質頁岩	〃		22
	104	E-102	III	(41.0)	(23.5)	(7.5)	(10.6)	珪質頁岩	〃		17
	105	E-100	I	(42.5)	(29.0)	(13.5)	(5.1)	珪質頁岩	〃		63
	106	F-104	III	43.0	23.5	15.5	15.6	珪質頁岩	〃		79
	107	B-100	III	(35.0)	(33.0)	(12.0)	(10.7)	珪質頁岩	〃		308
	108	F-104	III	(37.0)	(34.0)	(16.0)	(22.2)	珪質頁岩	〃		372
図37	109	B-101	III	51.0	31.0	15.0	31.7	珪質頁岩	〃		418
	110	F-102	III	(38.0)	(31.5)	(13.5)	(13.8)	珪質頁岩	〃		414
	111	A-98	II	(38.5)	(38.0)	(20.0)	(23.4)	珪質頁岩	〃		411
	112	E-104	I	154.0	60.5	25.5		珪質頁岩	〃		270
	113	A-99	II	86.5	48.5	24.0	67.1	珪質頁岩	〃		380
	114	D-104	I	81.0	61.5	27.5	113.2	珪質頁岩	〃		127

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
図37-115	B-100	II	71.0	46.0	9.0	31.5	埴質頁岩	不定形石器		114
116	C-103	III	65.5	28.0	10.5	14.8	埴質頁岩	〃	刃部角74度	241
117	D-104	II	49.0	36.0	15.0	18.9	埴質頁岩	〃		207
118	F-104	III	58.0	30.5	10.5	19.1	埴質頁岩	〃		229
119	F-101	I	60.0	43.0	15.0	35.2	埴質頁岩	〃		176
120	C-103	I	45.5	32.5	11.5	12.3	埴質頁岩	〃	刃部角56度	134
121	F-104	I	(61.5)	37.5	(13.5)	(31.4)	埴質頁岩	〃		181
122	F-103	IV	36.5	24.0	5.0	7.3	埴質頁岩	〃		188
123	A-97	II	29.0	38.0	12.0	11.8	埴質頁岩	〃		409
図38-124	B-100	II	69.0	43.0	10.0	22.1	埴質頁岩	〃		248
125	C-103	III	62.0	42.5	13.0	31.6	埴質頁岩	〃		117
126	B-100	II	(27.0)	(48.5)	(11.0)	(8.4)	埴質頁岩	〃	刃部角82度	38
127	D-104	I	45.0	37.0	12.5	14.4	埴質頁岩	〃		257
128	D-104	II	40.5	32.0	13.5	17.5	埴質頁岩	〃	刃部角69度	204
129	E-102	I	53.0	46.0	17.0	39.7	埴質頁岩	〃		193
130	B-100	I	58.0	46.5	18.0	48.8	埴質頁岩	〃		70
131	E-104	I	65.0	33.0	10.5	21.9	埴質頁岩	〃		148
132	F-104	I	51.5	40.5	10.0	19.5	埴質頁岩	〃		225
133	D-104	I	56.0	49.5	15.0	31.7	埴質頁岩	〃		206
134	G-104	IV	66.5	46.0	13.5	49.6	埴質頁岩	〃	刃部角53度	43
135	B-98	I	(36.0)	(45.0)	(11.0)	(21.0)	埴質頁岩	〃	刃部角48度	80
136	E-104	I	54.0	45.5	11.5	24.2	埴質頁岩	〃	刃部角80度	390
図39-137	E-104	I	(46.0)	62.0	15.5	(38.3)	埴質頁岩	〃		88
138	E-102	I	48.0	45.0	14.0	29.2	埴質頁岩	〃		196
139	B-97	II	46.0	(34.0)	(15.0)	(23.1)	埴質頁岩	〃	刃部角51度	434
140	C-104	I	32.5	54.0	16.0	26.2	埴質頁岩	〃		135
141	B-97	II	69.5	48.0	21.5	76.4	埴質頁岩	〃		120
142	A-101	I	72.5	48.5	15.5	59.3	埴質頁岩	〃	刃部角65度	306
143	C-104	I	64.0	29.0	18.0	44.1	埴質頁岩	〃	刃部角41度	33
144	F-104	I	85.0	53.0	18.0	89.5	埴質頁岩	〃		65
145	F-103	I	55.5	(41.5)	(15.5)	(4.2)	埴質頁岩	〃		66
146	F-103	III	60.0	44.0	17.5	50.0	埴質頁岩	〃	刃部角60度	36
図40-147	G-104	IV	35.0	47.0	13.0	24.3	埴質頁岩	〃	刃部角56度	187
148	B-99	I	63.0	26.0	11.0	18.8	埴質頁岩	〃		10
149	B-97	II	(51.5)	(31.0)	(20.0)	(32.2)	埴質頁岩	〃		417
150	D-97	III	(41.0)	(36.0)	(19.0)	(35.3)	埴質頁岩	〃		383
151	E-102	I	(47.0)	(37.0)	(17.0)	(37.5)	埴質頁岩	〃		408
152	B-99	III	54.0	23.0	11.0	14.3	埴質頁岩	〃		440
153	B-97	II	79.0	36.0	14.5	37.1	埴質頁岩	〃	刃部角73度	307
154	A-101	II	(38.0)	(68.0)	(11.5)	(34.5)	埴質頁岩	〃		219
155	E-104	I	64.0	38.0	22.0	61.4	埴質頁岩	〃	刃部角46度	84
156	G-101	III	66.5	33.5	20.0	38.5	埴質頁岩	〃		71
157	B-98	I	53.0	30.5	12.5	20.7	埴質頁岩	〃		368
159	D-102	I	(35.0)	29.0	12.5	(11.7)	埴質頁岩	〃		388
図41-160	E-99	I	54.0	37.0	17.0	27.8	埴質頁岩	〃		442
161	F-103	I	50.0	48.0	14.0	25.9	埴質頁岩	〃		185
162	F-104	I	46.0	40.0	16.0	22.7	埴質頁岩	〃	刃部角38度	125
163	D-104	I	38.0	45.5	12.0	18.2	埴質頁岩	〃		203
	B-103	III	44.0	16.0	4.5	3.2	埴質頁岩	〃		12
	F-104	I	(28.0)	(40.0)	(11.0)	(11.4)	埴質頁岩	〃		68
	C-102	III	67.0	29.0	19.0	35.7	埴質頁岩	〃		72
	B-101	III	78.5	39.0	23.0	71.7	埴質頁岩	〃		76
	D-104	I	32.0	28.5	8.0	6.9	埴質頁岩	〃		78
	D-104	I	(22.0)	(42.0)	(13.0)	(8.7)	埴質頁岩	〃		82
	F-103	II	(41.5)	(46.5)	(14.0)	(17.7)	埴質頁岩	〃		85
	D-104	I	(45.0)	(37.5)	(12.5)	(22.6)	埴質頁岩	〃		87
	E-103	III	56.0	64.5	18.0	48.5	埴質頁岩	〃		89

辛畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
F-98	I		44.0	35.0	16.0	22.3	珪質頁岩	不定形石器		90
E-100	覆土		28.0	17.0	8.5	2.6	珪質頁岩	〃		108
D-97	III		46.5	39.0	11.0	17.7	珪質頁岩	〃		118
D-104	I		80.0	75.0	18.0	54.1	礫粒を挟み岩	〃		119
C-104	I		41.5	41.5	16.0	29.8	珪質頁岩	〃		121
E-104	I		64.0	63.0	19.5	71.4	珪質頁岩	〃		122
A-101	II		51.5	63.0	16.0	59.3	頁岩	〃		123
G-104	III		51.0	41.0	18.0	32.9	珪質頁岩	〃		124
F-104	I	(43.0)	(38.0)	(13.0)	(7.0)		珪質頁岩	〃		126
D-104	I		55.5	(79.0)	(15.0)	(53.8)	珪質頁岩	〃		128
D-104	I		41.0	43.0	15.0	18.9	珪質頁岩	〃		129
D-104	I		34.5	27.0	10.0	6.7	珪質頁岩	〃		130
D-104	I		45.5	42.5	15.5	31.1	珪質頁岩	〃		131
F-103	III		45.5	57.0	22.0	48.6	珪質頁岩	〃		132
F-98	I		41.5	28.0	13.0	15.1	珪質頁岩	〃		133
C-104	I		18.0	39.0	7.0	3.9	珪質頁岩	〃		136
E-104	I	(29.0)	(29.0)	(9.5)	(7.4)		珪質頁岩	〃		137
E-104	I		33.0	(19.5)	(4.5)	(3.3)	珪質頁岩	〃		138
C-102	III		64.0	24.5	12.0	11.0	珪質頁岩	〃		139
C-103	III	(48.0)	(39.5)	12.0	(20.2)		珪質頁岩	〃		140
C-103	III	(26.5)	(15.0)	(5.0)	(2.1)		珪質頁岩	〃		141
C-102	III	(25.0)	(34.5)	(14.5)	(14.1)		珪質頁岩	〃		142
B-100	III		37.0	56.0	13.0	17.6	珪質頁岩	〃		143
C-102	I		41.0	34.0	7.5	5.7	珪質頁岩	〃		144
G-103	I	(40.5)	(25.0)	(9.0)	(9.0)		珪質頁岩	〃		145
G-104	III	(36.0)	(29.5)	(11.5)	(2.3)		珪質頁岩	〃		146
D-104	I	(23.0)	(31.5)	(10.0)	(8.8)		珪質頁岩	〃		147
E-102	III	(22.5)	(48.0)	(7.0)	(6.1)		珪質頁岩	〃		149
G-103	III	(30.5)	(30.5)	8.0	(8.0)		珪質頁岩	〃		150
E-98	I		54.0	44.5	13.0	28.1	珪質頁岩	〃		151
F-104	III		51.5	32.0	9.0	12.3	珪質頁岩	〃		152
F-104	III		47.5	37.5	7.5	10.8	珪質頁岩	〃		153
E-102	III	(38.5)	(20.5)	9.0	(4.1)		珪質頁岩	〃		154
F-104	III	(49.0)	(50.0)	(13.0)	(28.8)		珪質頁岩	〃		155
F-104	I		43.0	21.5	9.5	5.1	珪質頁岩	〃		156
F-104	I		43.5	28.0	6.5	7.7	珪質頁岩	〃		157
F-103	IV		40.0	36.5	10.0	7.5	珪質頁岩	〃		158
F-103	IV		47.0	71.0	11.0	23.3	珪質頁岩	〃		159
F-103	II		44.0	33.0	9.5	12.0	珪質頁岩	〃		160
F-102	I	(42.5)	30.5	8.5	(8.4)		珪質頁岩	〃		161
D-104	I	(51.0)	(37.0)	9.5	(10.9)		珪質頁岩	〃		162
D-104	I		34.0	27.0	5.5	6.0	珪質頁岩	〃		163
D-104	I	(70.0)	(55.0)	(16.5)	(53.5)		珪質頁岩	〃		164
C-102	III	(33.0)	(23.5)	(11.0)	(6.6)		珪質頁岩	〃		165
C-102	I	(24.0)	(38.5)	(6.0)	(4.2)		珪質頁岩	〃		166
C-100	I	(46.5)	(40.5)	13.5	(37.6)		珪質頁岩	〃		167
B-100	II	(29.0)	(32.0)	(17.0)	(8.0)		珪質頁岩	〃		168
B-100	II	(27.0)	(35.0)	(10.0)	(10.3)		珪質頁岩	〃		169
C-100	I	41.0	37.5	11.0	10.6		珪質頁岩	〃		170
B-98	I	(60.5)	(45.0)	(11.0)	(24.6)		珪質頁岩	〃		171
C-98	III	(36.0)	(38.0)	(9.0)	(8.0)		珪質頁岩	〃		172
C-98	III	25.0	39.0	12.5	8.2		珪質頁岩	〃		173
B-97	II	(64.5)	(47.5)	(11.0)	(23.4)		珪質頁岩	〃		174
C-97	I	41.0	31.0	11.5	11.2		珪質頁岩	〃		175
D-102	I	(54.5)	(33.5)	(14.0)	(20.9)		珪質頁岩	〃		177
F-101	I	(49.5)	(50.5)	(17.5)	(37.6)		珪質頁岩	〃		178
D-103	I		59.0	38.0	20.0	20.8	珪質頁岩	〃		179

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
F-104	I	(22.0)	(28.0)	(11.0)	(6.6)	珪質頁岩	不定形石器			180
F-104	I	(53.0)	(38.0)	(10.0)	(21.0)	珪質頁岩	〃			182
F-103	III	(27.5)	(33.0)	(8.0)	(8.2)	珪質頁岩	〃			183
F-103	III	(38.5)	(54.0)	(8.0)	(13.9)	珪質頁岩	〃			184
F-103	IV	87.0	46.5	24.5	46.3	チャート	〃			186
F-105	I	41.0	29.0	10.0	7.6	珪質頁岩	〃			189
E-102	III	(34.5)	(27.5)	(10.0)	(10.6)	珪質頁岩	〃			190
G-104	I	(29.0)	(33.0)	(13.5)	(12.3)	珪質頁岩	〃			191
E-102	III	(27.0)	(27.0)	(10.0)	(7.7)	珪質頁岩	〃			192
E-102	I	56.0	37.5	16.0	22.1	珪質頁岩	〃			194
G-104	III	35.0	54.5	15.0	28.0	珪質頁岩	〃			195
E-96	IV	(42.5)	(46.0)	(19.0)	(35.5)	珪質頁岩	〃			197
E-98	I	(55.5)	41.5	28.0	(45.9)	珪質頁岩	〃			198
E-98	I	(29.0)	(34.5)	10.0	(10.7)	珪質頁岩	〃			199
C-102	II	43.0	43.0	14.5	22.7	珪質頁岩	〃			200
C-103	III	(32.5)	(32.0)	(10.5)	(10.2)	珪質頁岩	〃			201
D-102	I	38.0	46.0	11.0	20.2	珪質頁岩	〃			202
D-104	II	29.5	32.0	11.5	10.0	珪質頁岩	〃			205
D-104	II	(48.5)	(57.5)	(17.5)	(40.8)	珪質頁岩	〃			208
D-104	I	(30.0)	(33.5)	(14.5)	(14.7)	珪質頁岩	〃			209
D-104	I	57.0	66.0	25.0	64.0	珪質頁岩	〃			210
C-104	I	36.0	66.0	9.5	21.4	珪質頁岩	〃			211
C-102	III	58.0	61.0	13.0	33.4	珪質頁岩	〃			212
D-102	I	44.0	69.0	13.5	39.4	珪質頁岩	〃			213
B-100	II	(48.0)	(49.5)	(9.5)	(17.0)	珪質頁岩	〃			214
C-100	I	(39.5)	(37.0)	(12.5)	(18.4)	珪質頁岩	〃			215
C-98	IV	42.0	(56.5)	(10.5)	(23.9)	珪質頁岩	〃			216
B-99	II	51.0	51.0	28.5	41.4	珪質頁岩	〃			217
D-104	I	93.0	49.0	20.0	86.5	珪質頁岩	〃			218
D-102	I	66.0	38.0	10.5	18.6	珪質頁岩	〃			220
D-104	II	(62.5)	(37.0)	(12.0)	(28.2)	珪質頁岩	〃			221
B-99	I	65.0	6.0	4.0	3.9	珪質頁岩	〃			222
B-98	I	57.5	28.5	9.0	12.4	珪質頁岩	〃			223
F-103	III	41.5	26.0	8.0	8.9	珪質頁岩	〃			224
F-103	IV	55.0	38.5	12.0	25.0	珪質頁岩	〃			227
F-101	I	(72.0)	(48.0)	(12.0)	(22.0)	珪質頁岩	〃			228
F-103	III	(97.0)	46.0	24.0	(77.6)	珪質頁岩	〃			230
F-103	I	31.0	30.0	5.0	4.4	珪質頁岩	〃			231
E-104	I	(21.0)	(20.0)	(9.5)	(2.5)	珪質頁岩	〃			232
E-104	I	80.5	45.5	15.0	42.3	珪質頁岩	〃			234
E-102	I	62.0	46.0	12.5	27.5	珪質頁岩	〃			235
E-98	III	41.5	27.5	8.0	6.8	珪質頁岩	〃			236
G-104	IV	(86.0)	48.0	21.5	(42.7)	珪質頁岩	〃			237
G-104	III	46.0	21.0	7.5	2.7	珪質頁岩	〃			238
E-103	I	(25.0)	(49.5)	(7.5)	(8.0)	珪質頁岩	〃			239
C-100	I	44.5	42.0	10.0	16.4	珪質頁岩	〃			240
C-103	I	44.5	16.5	4.5	3.3	珪質頁岩	〃			242
C-102	I	(92.0)	(57.0)	(11.0)	(47.4)	珪質頁岩	〃			243
C-102	III	31.5	32.5	6.0	3.6	珪質頁岩	〃			244
B-97	II	60.5	(27.0)	(8.0)	(9.7)	珪質頁岩	〃			245
B-97	II	33.0	25.0	6.5	4.2	珪質頁岩	〃			246
C-98	III	32.5	31.0	12.0	14.1	珪質頁岩	〃			247
B-100	II	46.5	55.0	12.0	25.5	珪質頁岩	〃			249
B-102	I	33.0	52.0	6.0	8.3	珪質頁岩	〃			250
F-103	III	37.0	36.0	8.0	10.7	珪質頁岩	〃			251
E-104	I	46.0	36.5	12.0	17.9	珪質頁岩	〃			252
F-102	II	(41.5)	45.0	15.0	(16.4)	珪質頁岩	〃			253

幸塚(10)遺跡・幸塚(6)遺跡・幸塚(3)遺跡

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
F-103	I	(42.5)	(40.5)	(8.5)	(74.2)		珪質頁岩	不定形石器		254
F-103	III	(56.5)	(41.0)	9.5	(22.7)		珪質頁岩	〃		255
D-104	I	62.0	(57.0)	22.0	(62.5)		珪質頁岩	〃		256
C-101	IV	28.0	52.0	7.0	13.3		珪質頁岩	〃		258
E-103	III	38.5	33.0	13.5	16.6		珪質頁岩	〃		259
B-97	II	30.5	26.5	8.5	4.4		珪質頁岩	〃		260
A-102	II	(39.0)	(30.5)	(7.0)	(7.6)		珪質頁岩	〃		261
D-104	I	35.5	45.0	12.0	16.4		珪質頁岩	〃		262
D-104	I	64.0	52.0	13.0	17.4		珪質頁岩	〃		264
F-103	II	(89.0)	(41.0)	(11.0)	(34.1)		珪質頁岩	〃		267
B-101	I	(23.0)	(27.0)	(13.0)	(8.1)		珪質頁岩	〃		311
A-101	III	37.5	39.0	17.0	23.0		珪質頁岩	〃		312
A-98	II	40.0	15.0	14.0	6.9		珪質頁岩	〃		313
F-103	I	22.0	35.0	9.5	5.6		珪質頁岩	〃		314
C-103	III	26.0	38.0	12.0	10.6		珪質頁岩	〃		315
G-104	I	89.0	34.0	22.0	58.5		珪質頁岩	〃		316
A-99	II	47.5	42.0	19.5	36.0		珪質頁岩	〃		317
C-102	III	40.5	36.0	9.5	11.2		珪質頁岩	〃		318
E-102	I	25.5	19.5	9.0	3.3		珪質頁岩	〃		319
B-100	III	41.5	20.5	12.0	7.9		珪質頁岩	〃		320
F-104	I	(55.5)	(20.0)	(5.5)	(5.5)		珪質頁岩	〃		321
C-104	I	(35.0)	(27.0)	(17.0)	(12.2)		珪質頁岩	〃		322
A-101	III	(49.5)	26.0	15.0	(22.9)		珪質頁岩	〃		323
E-100	III	(35.0)	(31.5)	(11.0)	(10.6)		珪質頁岩	〃		324
B-101	III	39.0	37.0	10.0	15.5		珪質頁岩	〃		325
D-104	II	(50.5)	(28.5)	(16.0)	(17.1)		珪質頁岩	〃		327
F-102	III	(50.0)	(48.5)	(13.0)	(22.3)		珪質頁岩	〃		328
F-103	IV	44.5	51.0	16.5	33.3		珪質頁岩	〃		329
D-98	III	50.0	26.5	14.5	19.3		珪質頁岩	〃		330
B-99	III	46.0	37.0	15.0	32.8		珪質頁岩	〃		331
B-100	I	41.0	26.0	13.5	17.3		珪質頁岩	〃		332
B-100	III	(41.5)	(30.0)	(14.5)	(15.3)		珪質頁岩	〃		333
F-103	I	(23.5)	(30.0)	(7.0)	(4.9)		珪質頁岩	〃		334
F-104	III	(62.0)	(31.5)	(14.0)	(24.0)		珪質頁岩	〃		335
D-100	I	(18.0)	(40.0)	(17.5)	(14.0)		珪質頁岩	〃		337
B-101	III	(44.5)	(44.0)	(14.0)	(31.6)		珪質頁岩	〃		338
A-97	II	(63.0)	(61.0)	(24.0)	(69.7)		珪質頁岩	〃		339
C-100	I	(41.5)	(53.0)	(14.5)	(26.4)		珪質頁岩	〃		340
F-102	III	(40.5)	(41.5)	(19.5)	(35.2)		珪質頁岩	〃	刃部角79度	341
F-101	I	(49.5)	(25.5)	21.0	(21.5)		珪質頁岩	〃		342
B-99	III	(42.5)	(40.0)	(19.5)	(33.1)		珪質頁岩	〃		343
B-100	I	(46.5)	(42.5)	(19.0)	(32.6)		珪質頁岩	〃		344
F-104	I	(22.0)	(22.0)	(8.5)	(3.8)		珪質頁岩	〃		346
C-97	I	(19.5)	(39.0)	(18.0)	(9.6)		珪質頁岩	〃		347
B-101	I	(102.0)	(48.5)	(22.5)	(91.5)		珪質頁岩	〃		348
C-102	I	(37.0)	(53.0)	(22.0)	(39.7)		珪質頁岩	〃		349
F-103	III	(39.5)	(30.0)	(23.0)	(25.6)		珪質頁岩	〃		350
B-102	I	45.0	25.0	10.0	8.1		珪質頁岩	〃		351
B-99	III	(42.0)	(34.5)	(16.5)	(22.8)		珪質頁岩	〃		352
C-103	III	(44.5)	(28.5)	(11.5)	(13.5)		珪質頁岩	〃		353
E-104	I	(69.0)	(42.0)	(20.0)	(47.7)		珪質頁岩	〃		354
A-101	II	(55.0)	(43.5)	(15.5)	(33.2)		珪質頁岩	〃		355
B-99	II	(32.0)	(20.5)	(6.5)	(4.6)		珪質頁岩	〃		356
D-102	I	45.0	20.5	15.0	11.4		珪質頁岩	〃		357
C-98	III	(33.0)	(37.0)	(11.0)	(14.0)		珪質頁岩	〃		358
D-102	I	69.0	39.0	21.5	36.8		珪質頁岩	〃		359
F-101		(54.0)	(25.5)	(13.0)	(16.0)		珪質頁岩	〃		360

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
	A-98	I	(49.0)	(43.0)	(19.0)	(32.7)	珪質頁岩	不定形石器		361
	F-101		56.0	(72.5)	16.0	(29.8)	珪質頁岩	〃		362
	B-99	I	56.0	22.0	11.5	14.8	珪質頁岩	〃		363
	E-100	III	48.5	35.5	13.3	22.4	珪質頁岩	〃		364
	D-102	I	29.5	35.0	15.5	7.3	珪質頁岩	〃		365
	B-100	I	(28.0)	(38.0)	(7.0)	(7.6)	珪質頁岩	〃		366
	D-102	I	51.5	22.0	15.5	9.8	珪質頁岩	〃		367
	G-103	III	45.0	38.0	8.0	10.5	珪質頁岩	〃		369
	A-98	II	(55.5)	(34.5)	(16.0)	(25.5)	珪質頁岩	〃		370
	A-100	II	78.0	42.0	23.5	62.3	珪質頁岩	〃		371
	A-103	III	62.0	41.0	21.5	39.9	珪質頁岩	〃		373
	B-98	I	62.0	41.5	17.0	32.0	珪質頁岩	〃		374
	F-103	II	(56.0)	(36.0)	16.0	(29.0)	珪質頁岩	〃		375
	C-102	I	70.0	37.5	28.5	49.3	珪質頁岩	〃		377
	D-102	I	34.0	43.0	15.0	23.4	珪質頁岩	〃		378
	E-103	II	89.5	59.5	18.0	50.2	珪質頁岩	〃		379
	A-99	II	(39.0)	(32.0)	(12.0)	(17.3)	珪質頁岩	〃		381
	A-99	II	85.0	44.5	15.5	44.0	珪質頁岩	〃		382
	F-103	III	(64.0)	(32.0)	(20.0)	(38.3)	珪質頁岩	〃		384
	A-101	II	(70.0)	(44.5)	(23.5)	(69.6)	珪質頁岩	〃		385
	F-102	III	(57.0)	(42.0)	(16.0)	(32.0)	珪質頁岩	〃		386
	G-104	III	35.0	28.5	6.5	9.5	珪質頁岩	〃		387
	F-104	I	(46.5)	(37.0)	(12.5)	(26.2)	珪質頁岩	〃		389
	D-104	I	67.5	35.5	19.5	30.6	珪質頁岩	〃		391
	B-99	I	51.5	25.5	10.0	6.6	珪質頁岩	〃		392
	E-102	III	43.5	36.5	14.0	19.2	珪質頁岩	〃		393
	F-103	I	(23.0)	(36.5)	12.5	(8.7)	珪質頁岩	〃		394
	F-104	I	52.0	47.5	20.0	43.1	珪質頁岩	〃		395
	F-103	II	31.5	23.5	10.5	6.3	珪質頁岩	〃		396
	B-100	III	51.0	32.0	8.0	10.5	珪質頁岩	〃		397
	B-98	I	25.0	20.5	13.0	7.2	珪質頁岩	〃		398
	C-103	II	45.0	14.0	11.0	6.8	珪質頁岩	〃		399
	B-102	I	(31.5)	(45.5)	(16.0)	(21.5)	珪質頁岩	〃		400
	E-100	III	(33.0)	(30.0)	(7.5)	(6.2)	珪質頁岩	〃		401
	E-103	I	65.0	49.0	16.0	33.8	珪質頁岩	〃		402
	B-97	II	39.5	35.0	15.5	16.7	珪質頁岩	〃		403
	B-98	I	(40.0)	(30.0)	7.5	(22.8)	珪質頁岩	〃		404
	C-101	III	31.5	33.0	6.5	4.6	珪質頁岩	〃		405
	B-98	I	(26.5)	35.5	9.5	(10.3)	珪質頁岩	〃		406
	F-101	I	(50.5)	(52.5)	(14.0)	(35.5)	珪質頁岩	〃		407
	E-104	I	28.0	33.5	11.5	12.2	珪質頁岩	〃		410
	B-100	III	65.0	41.5	22.0	48.8	珪質頁岩	〃		412
	E-103	I	55.0	41.5	11.5	20.2	珪質頁岩	〃		413
	E-100	I	51.5	23.5	6.5	8.4	珪質頁岩	〃		415
	A-100	II	(39.0)	(33.0)	(12.0)	(12.1)	珪質頁岩	〃		416
	D-102	I	(58.0)	37.5	22.0	(45.6)	珪質頁岩	〃		419
	C-100	I	(65.0)	(45.0)	(17.0)	(49.6)	珪質頁岩	〃		420
	B-103	III	(31.0)	(35.5)	(9.6)	(10.3)	珪質頁岩	〃		421
	F-102	III	(50.5)	32.0	17.5	(21.0)	珪質頁岩	〃		422
	A-97	II	(60.5)	(34.0)	(19.0)	(30.5)	珪質頁岩	〃		423
	B-97	II	(33.5)	(24.5)	(13.0)	(10.6)	珪質頁岩	〃		424
	B-98	I	(24.5)	(35.0)	(11.5)	(11.4)	珪質頁岩	〃		425
	D-103	I	31.0	31.0	24.0	23.1	珪質頁岩	〃		426
	D-104	I	(23.0)	(22.0)	(6.0)	(3.8)	珪質頁岩	〃		427
	E-102	III	50.0	54.5	17.0	29.9	珪質頁岩	〃		428
	B-104	III	(35.0)	29.0	14.5	(15.8)	珪質頁岩	〃		429
	E-102	I	(39.5)	21.5	(14.0)	(10.4)	珪質頁岩	〃		430

辛棟(10)遺跡・辛畑(6)遺跡・辛塚(3)遺跡

図版番号	出土地点	層位	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	石質	器種	備考	整理番号
A-97		Ⅲ	27.0	25.5	9.0	5.6	珪質頁岩	不定形石器		431
E-104		Ⅰ	38.0	32.0	12.0	18.1	珪質頁岩	〃		432
B-100		Ⅲ	79.0	30.0	19.0	25.7	珪質頁岩	〃		433
C-104		Ⅰ	(46.5)	(33.0)	24.0	(33.3)	珪質頁岩	〃		435
D-98		Ⅲ	(61.0)	(55.5)	(28.5)	(72.1)	珪質頁岩	〃		436
F-103		Ⅱ	31.5	29.0	11.5	10.3	珪質頁岩	〃		437
B-99		Ⅰ	(28.5)	(37.0)	(19.5)	(12.1)	珪質頁岩	〃		438
B-100		Ⅲ	(45.5)	23.5	12.0	(11.6)	珪質頁岩	〃		439
B-99		Ⅰ	31.5	23.0	8.5	7.1	珪質頁岩	〃		441
B-103		Ⅲ	45.0	(51.5)	15.0	(25.4)	珪質頁岩	〃		443
E-104		Ⅰ	(17.0)	(31.0)	(11.0)	(10.2)	珪質頁岩	〃		444
F-99		Ⅰ	(40.5)	(39.0)	(16.0)	(21.4)	珪質頁岩	〃		445
B-98		Ⅰ	(26.0)	(39.5)	(15.0)	(14.5)	珪質頁岩	〃		446
F-104		Ⅲ	(47.5)	(17.0)	11.5	(9.6)	珪質頁岩	〃		447

礫石器計測表

図版番号	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石質	器種	備考	整理番号
図42-1	D-100	I	118.0	48.0	23.0	189.0	安山岩	石斧		64
2	D-104	I	77.5	41.0	9.5	43.7	頁岩	石斧		81
3	B-100	II	34.0	66.0	27.0	59.5	砂岩	石斧		82
4	D-102	I	64.0	59.0	16.0	81.6	安山岩	石斧		87
5	B-98	I	37.0	23.0	7.0	9.0	蛇紋岩	石斧		83
6	C-100	III	28.5	24.0	6.8	6.7	頁岩	石斧		85
7	G-96	I	(28.0)	(47.5)	(17.5)	(24.4)	褐色細粒凝灰岩	石斧		84
8	B-101	III	52.5	37.5	10.0	33.9	褐色細粒凝灰岩	石斧		86
9	F-104	I	84.0	60.5	27.0	184.0	安山岩	石斧		66
10	C-103	III	115.0	80.0	37.0	489.4	安山岩	石斧		65
図43-11	F-104	III	134.0	59.0	49.0	611.6	安山岩	スリ石	2側縁	7
12	D-104	I	(76.5)	(71.5)	(57.0)	404.7	安山岩	スリ石	1側縁	52
13	A-98	II	(148.5)	68.5	53.0	729.8	安山岩	スリ石	1側縁	21
14	D-101	I	(83.5)	(59.0)	(43.0)	332.3	閃緑岩	スリ石	1側縁	13
15	D-104	I	113.6	52.9	58.1	557.4	安山岩	スリ石	1側縁	4
16	D-104	I	146.5	64.5	54.0	816.2	砂岩	スリ石		51
17	F-105	I	(102.0)	64.0	48.0	410.2	安山岩	スリ石	1側縁	11
図44-18	E-104	I	(113.5)	(87.5)	(50.0)	777.6	安山岩	スリ石	1側縁	9
19	F-104	III	(103.0)	(46.0)	(67.5)	445.2	安山岩	スリ石	1側縁	6
20	A-98	II	(102.0)	(79.5)	(52.0)	514.4	安山岩	スリ石	1側縁	20
21	G-101	I	(92.0)	69.5	36.0	331.3	安山岩	スリ石	1側縁	3
22	D-104	II	102.5	80.0	56.0	497.6	安山岩	スリ石	1側縁	53
23	B-101	III	(99.5)	(64.0)	(54.0)	402.3	安山岩	スリ石	1側縁	17
24	A-101	I	(80.2)	65.2	56.1	582.2	砂岩	スリ石		19
25	C-98	I	105.0	45.0	39.0	273.7	安山岩	スリ石	1側縁	16
図45-26	F-104	I	(84.5)	(54.5)	(47.5)	300.1	安山岩	スリ石		56
27	D-104	I	(74.0)	68.5	43.0	(326.3)	砂岩	スリ石	1側縁	46
28	F-104	I	(83.5)	(66.5)	(64.0)	319.0	安山岩	スリ石	1側縁	71
29	B-101	II	111.0	71.0	40.0	540.6	安山岩	スリ石	1側縁	88
30	F-104	I	94.0	58.0	40.0	196.0	安山岩	スリ石	1側縁	48
31	A-97	II	(80.0)	(63.0)	(57.5)	239.4	安山岩	スリ石	1側縁	54
32	D-104		117.0	71.5	37.0	448.2	安山岩	スリ石	1面	23
33	B-101	III	(108.0)	(60.5)	(42.0)	436.8	安山岩	スリ石	1側縁	14
34	F-104	I	(87.0)	(81.0)	44.0	490.0	安山岩	スリ石	2側縁	69
35	C-101	I	(88.0)	69.0	(26.0)	181.7	砂岩	スリ石	1側縁	24
図46-36	B-98		(89.0)	56.0	39.0	270.0	安山岩	スリ石	1側縁	18
37	C-99	II	(69.5)	(59.0)	(44.0)	249.0	安山岩	スリ石	1側縁	12
38	F-103	I	(51.0)	(67.5)	(50.0)	222.5	砂岩	スリ石	1側縁	8
39	D-98	III	98.0	59.0	38.0	314.9	流紋岩	スリ石		35
40	F-105	I	(67.5)	(59.5)	(42.0)	210.1	安山岩	凹石	2面	10
41	F-104	I	95.0	55.0	36.5	167.0	凝灰岩	凹石		58
42	F-104	I	130.5	70.0	44.0	543.0	安山岩	凹石		57
43	B-101	III	131.0	67.0	30.0	282.8	砂岩	タタキ石		15
44	E-104	I	(114.0)	64.0	(21.0)	219.3	凝灰岩	タタキ石	1面	22
45	C-101	I	60.0	60.0	47.0	230.0	チャート	スリ石		25
46	D-102	I	57.5	45.5	41.0	135.0	頁岩	タタキ石		59
図47-47	E-100	覆土	102.0	81.0	58.0	663.3	安山岩	タタキ石		30
48	E-103	III	(44.5)	(58.0)	(20.0)	68.1	砂岩			28
49	D-102	I	87.0	54.0	38.0	251.1	流紋岩	タタキ石		33
50	B-99	I	73.0	78.0	27.5	251.6	チャート	タタキ石		37
51	D-104	II	(132.5)	65.0	38.0	478.0	砂岩	スリ石		27
52	F-103	III	118.0	88.0	21.0	211.9	安山岩	擦切具		49
53	B-99	I	(42.0)	(56.0)	(22.5)	55.3	砂岩	石錘		39
54	B-104	III	347.0	217.0	55.0	690.0	安山岩	石皿		60
図48	F-102	I	48.0	48.5	14.5	50.1	砂岩		円盤状石製品	62

第5章 自然科学的分析

幸畑(3)遺跡出土火山灰の蛍光X線分析

奈良教育大学教授 三辻利一

1) はじめに

粒子が細かい点で火山灰は粘土と似ており間違え易い。しかし、粘土は、岩石の風化が進行したものであり、この点で火山灰とは全く異なる。火山灰でも風化の進んだ試料であるか、余り風化が進んでいない試料であるかはNa因子で容易に判断できる。風化が余り進んでいない試料についてはK、Ca、Rb、Sr因子から白頭山火山灰か、それとも、十和田a火山灰であるかは判断できる。

本報告では幸畑(3)遺跡出土の火山灰の蛍光X線分析の結果について報告する。

2) 分析結果

分析値は表1にまとめられている。はじめに、Na因子を点検すると、試料は1.29の分析値を持つ。新鮮であれば、白頭山火山灰も十和田a火山灰もNaの分析値は1.0を越える。したがって、試料は新鮮な火山灰といえる。

図1にはK—Ca分布図を示す。試料は白頭山領域によく対応する。

図2にはRb—Sr分布図に示す。この図でも試料は白頭山領域によく対応する。

図3にはFe因子を比較してある。新鮮な火山灰試料である試料はFe因子でも、よく白頭山領域に対応する。

したがって、今回分析した試料は、白頭山火山灰である。

表1 幸畑(3)遺跡出土火山灰の分析値

Na	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
Na 1	1.08	0.308	2.55	1.14	0.086	1.29

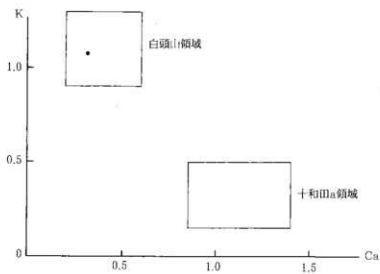


図1 K-Ca分布図

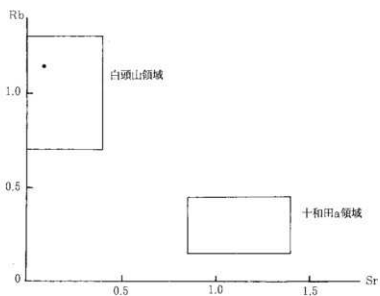


図2 Rb-Sr分布図

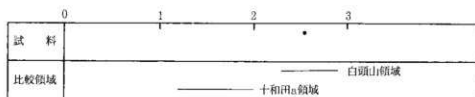


図3 Fe因子の比較

第6章 まとめ

今回の調査は、遺跡範囲が不明瞭な地区もあったことから、登録されている各遺跡範囲にとらわれずに、それぞれの間をも試掘先行で調査を行った。

調査の結果、以下のような成果がみられた。

幸畑(10)遺跡では、調査範囲中には、ごく少量の遺物が散発的に出土しただけで、遺構及び遺物包含層の存在は確認できなかった。周辺部も大きく地山の露呈している部分もあり、農地利用による削平が進んでいることが窺われた。

遺跡内のほとんどが未調査であることから断定はできないが、今回の調査区に限っては、遺跡主体部から大きくはずれているものと考えられる。

幸畑(6)遺跡では、遺跡範囲内から溝状ピットが2基検出されており、当初の範囲外からも2基の溝状ピットが確認された。これまでの周辺遺跡の調査例からも、より多くの当該遺構の存在が考えられる。このことから、本遺跡の範囲は、新規に遺構が確認された地点まで広がるものと考えられる。ただ、今回の調査が道路計画の路線上の調査であったことから、遺跡の全範囲を特定することはできない。また、遺物はごく少量が出土しただけで、住居跡などを含む集落の存在は確認できなかった。

今回の調査区域の遺構・遺物の出土状態から、溝状ピットが落とし穴と考えられていることや、これまでの他遺跡の検出例から、集落とは別個の猟場的な性格をもつ遺跡と考えられる。

幸畑(3)遺跡では、遺跡東端部の南面する斜面から遺構・遺物が集中して出土した。竅穴遺構の1基は縄文時代早期後半期のもので、溝状ピットは縄文時代、土坑の1基は平安時代のものと考えているが、他の遺構は時期を特定できない。

出土土器は、縄文時代早期後半期のものがほとんどを占めている。また、石器では、出土点数の多い石筥を中心とした石器群が特徴的である。

今回の調査区域は、遺跡主体部からややはずれたものと考えられるが、遺構・遺物の出土した斜面の上部に縄文時代早期の集落の存在する可能性が示唆された。

今回の調査の成果から、幸畑(6)遺跡は溝状ピットだけが検出されたということから、猟場的な性格が考えられる。幸畑(3)遺跡は周囲に点在する縄文時代早期から前期初頭におたる遺跡群の一部であったことが理解された。また、出土土器及び石筥などの特定の石器群の共通性から、鷹架沼対岸の表館遺跡遺跡との関連性に興味深いものがある。

より広範囲な見地からは、縄文時代早期後半期のこの地域における生活及び居住空間の広がり、さらに明らかになったものと考えられる。

村内の溝状ピット群については、現在縄文時代後期との見方が強く、この時期の大規模集落はより北方の尾敷沼北岸の台地上で数カ所確認されている。大規模な溝状ピット群はこれら集落から離れた台地上に存在することから、この時期の猟場を含めた種々の目的別の場の設定がなされていたことの一部が理解され、幸畑(6)遺跡もこの一部として機能していたことが窺われる。(白鳥 文雄)

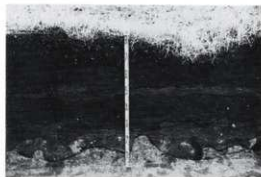
参考文献

- 青森県教育委員会 1973 「むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財分布調査報告書」
青森県埋蔵文化財調査報告書第1集
- 青森県教育委員会 1977 「むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財試掘調査概報」
青森県埋蔵文化財調査報告書第36集
- 青森県教育委員会 1978 「むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財試掘調査概報」
青森県埋蔵文化財調査報告書第42集
- 青森県教育委員会 1980 「長七谷地貝塚」青森県埋蔵文化財調査報告書第57集
- 青森県教育委員会 1984 「和野前山遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第82集
- 青森県教育委員会 1985 「売場遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第93集
- 青森県教育委員会 1988 「上尾駁（1）遺跡A地区」青森県埋蔵文化財調査報告書第112集
- 青森県教育委員会 1989 「表館（1）遺跡Ⅲ」青森県埋蔵文化財調査報告書第120集
- 青森県教育委員会 1990 「幸畑（7）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第125集
- 青森県教育委員会 1993 「家ノ前遺跡・幸畑（7）遺跡Ⅱ」青森県埋蔵文化財調査報告書第148集
- 八戸市教育委員会 1980 「長七谷地貝塚発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第3集
- 八戸市教育委員会 1980 「長七谷地貝塚発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第4集
- 八戸市教育委員会 1982 「長七谷地貝塚発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 八戸市教育委員会 1989 「赤御堂遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集
- 三沢市教育委員会 1985 「根井沼（1）遺跡緊急発掘調査報告書」
三沢市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 三沢市教育委員会 1988 「根井沼（1）遺跡緊急発掘調査報告書Ⅱ」
三沢市埋蔵文化財調査報告書第4集

幸畑(10)遺跡



近景



基本層序 (No.7付近)

幸畑(6)遺跡



近景



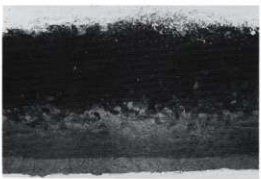
近景



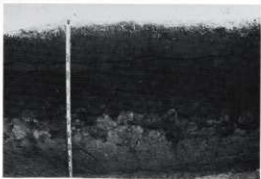
作業風景



作業風景



基本層序 (No.46付近)



基本層序 (No.33付近)

検出遺構



第1号
溝状ビット



第2号
溝状ビット



第3号
溝状ビット



第4号
溝状ビット

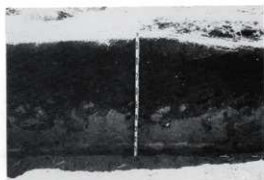
幸畑(3)遺跡



近景



近景



基本層序 (C・D-91グリッド)



(南北セクション)



(東西セクション)

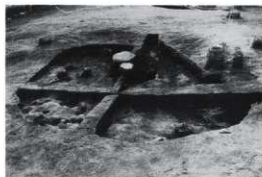
第1号竖穴遺構・第1号土坑



(完掘)



(東西セクション)



(南北セクション)

第2号竪穴遺構・第2号土坑



(完掘)

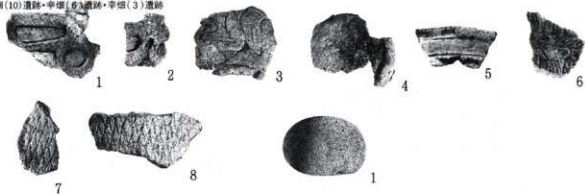


第3号土坑

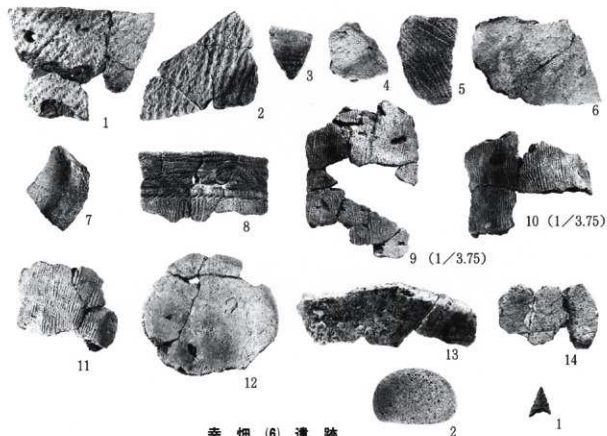


第1号溝状ビット

幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡



幸畑(10)遺跡

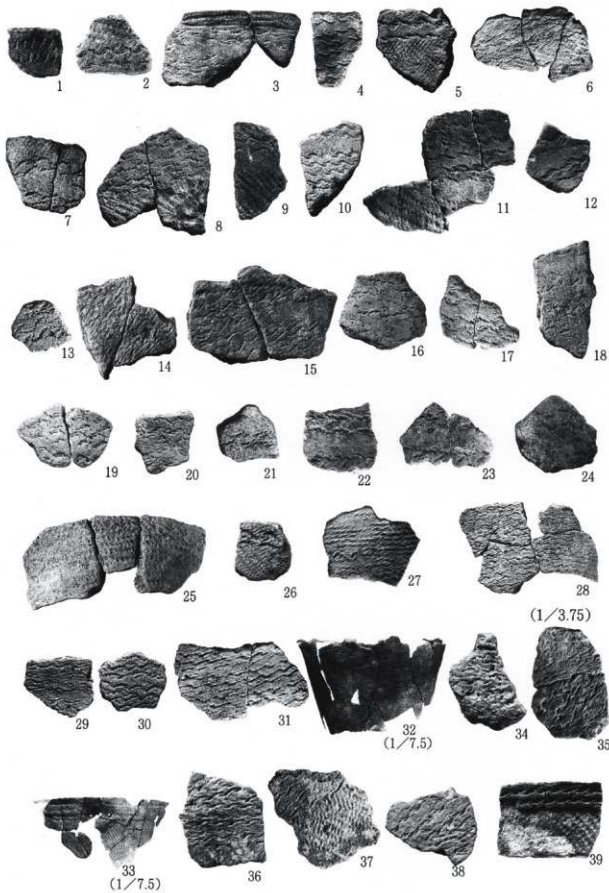


幸畑(6)遺跡



幸畑(3)遺跡

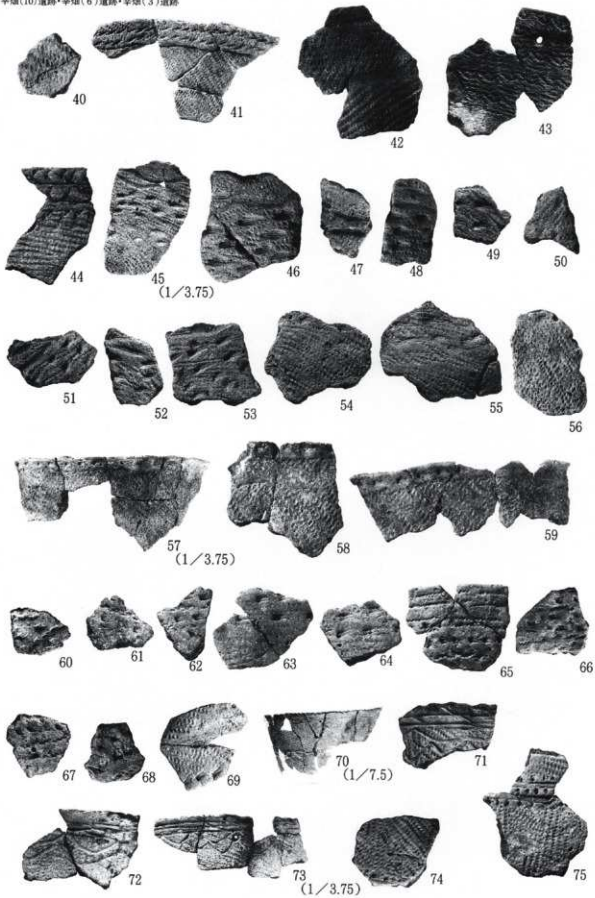
S=1/2.5



幸知(3)遺跡出土土器 - 1

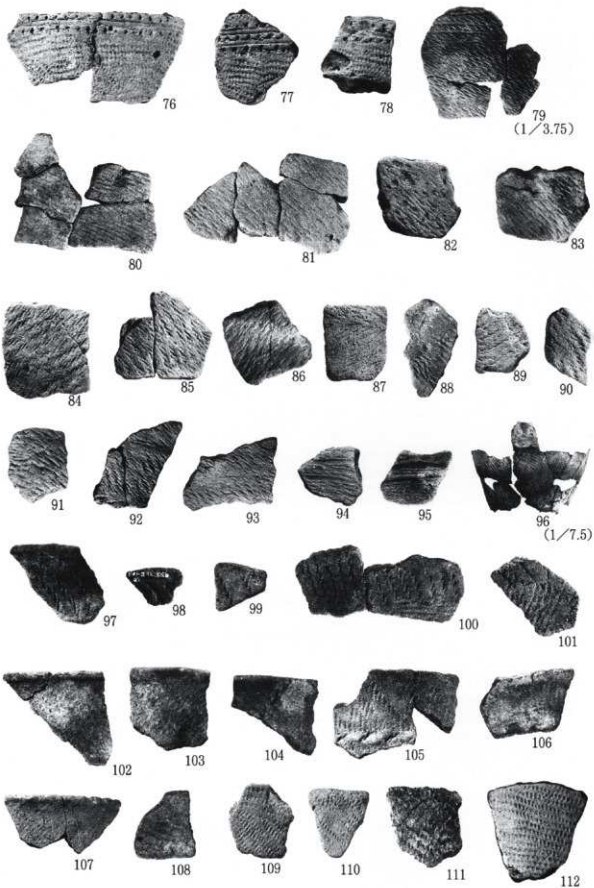
S=1/2.5

辛頤(10)遺跡・辛畑(6)遺跡・辛畑(3)遺跡



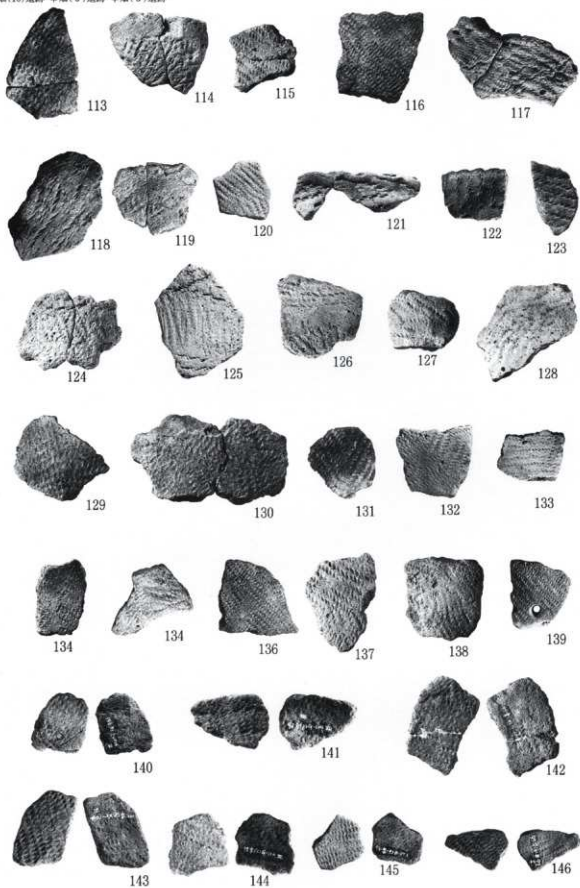
辛畑(3)遺跡出土土器 - 2

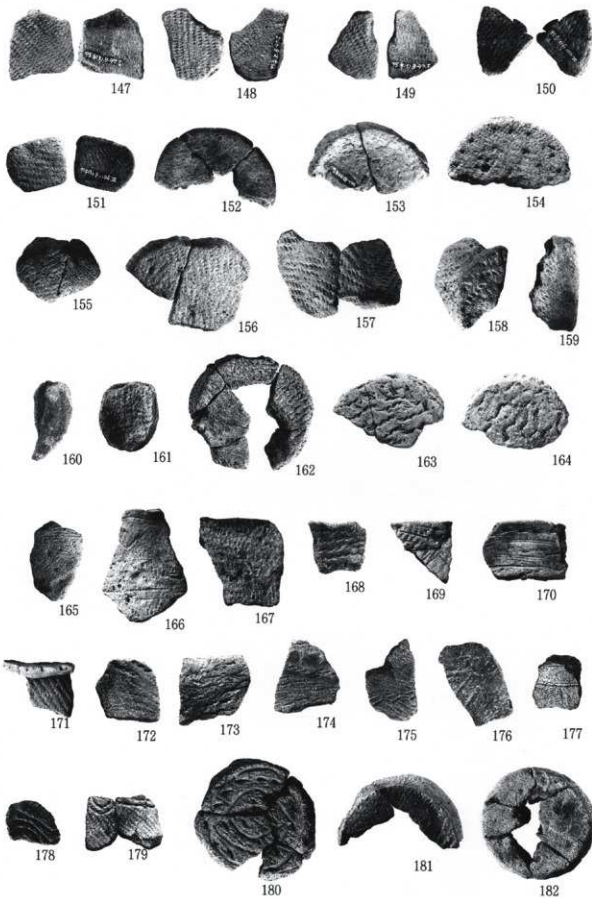
S=1/2.5



幸畑(3)遺跡出土土器 - 3

S=1/2.5

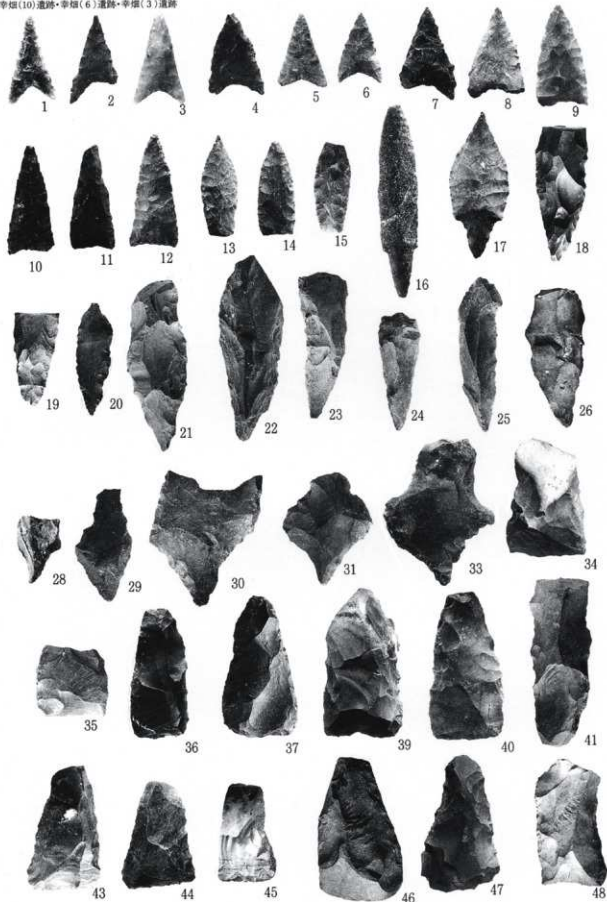




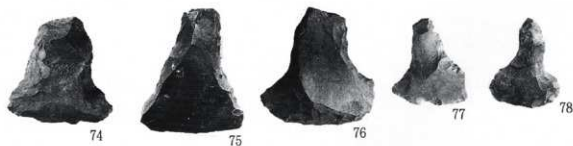
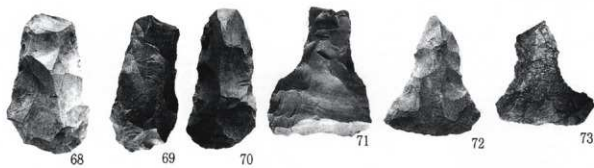
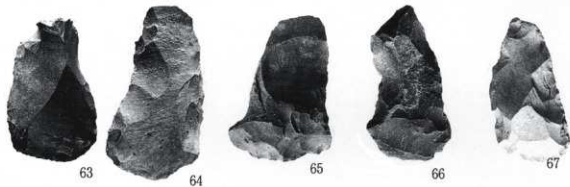
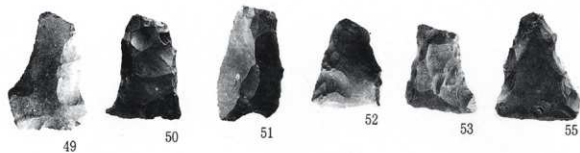
幸畑(3)遺跡出土土器一 5

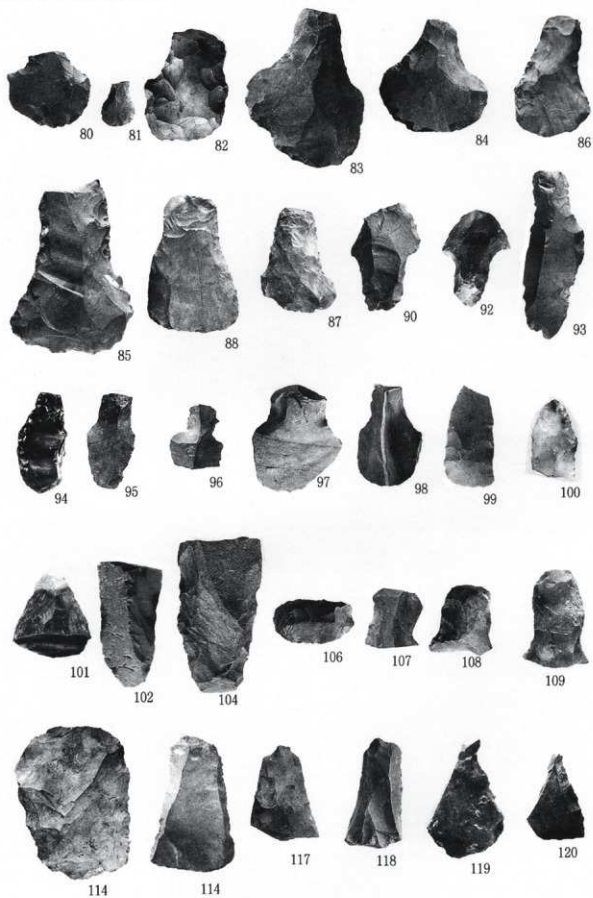
S=1/2.5

幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡



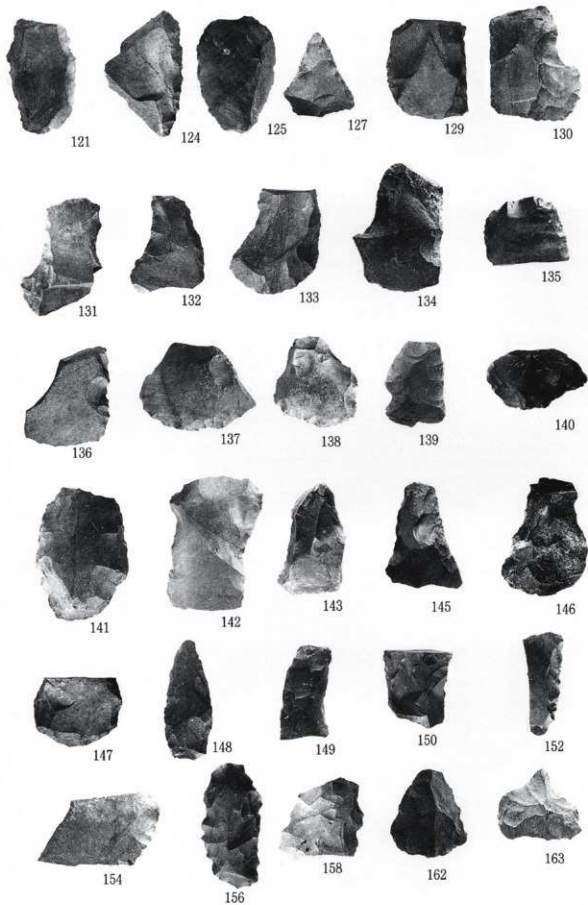
幸畑(3)遺跡出土石器一 1 S=1/2 (1~17, 29 1/1)





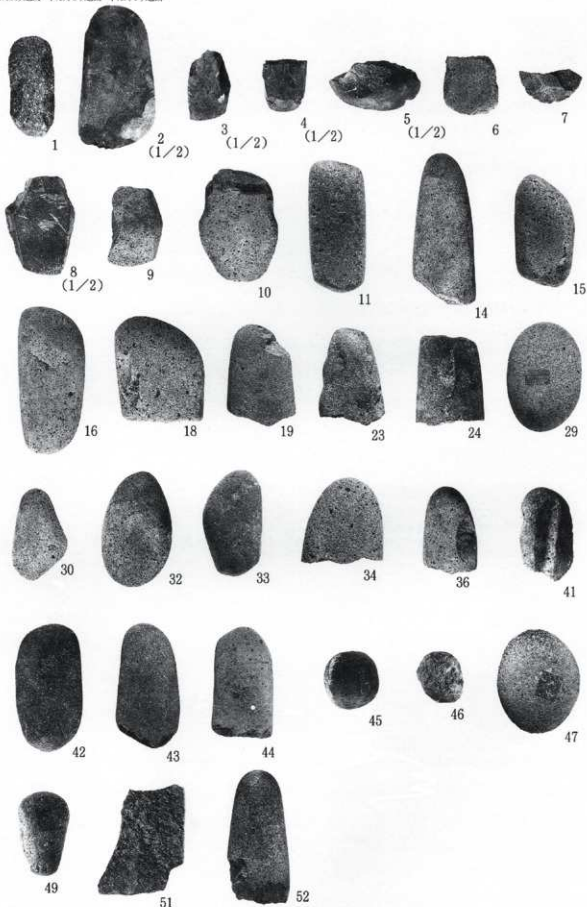
幸畑(3)遺跡出土石器 - 3

S=1/2 (99~101 1/1)



幸畑(3)遺跡出土石器— 4

S=1/2



幸畑(3)遺跡出土土器 - 5

S=1/4

報告書抄録

ふりがな	こうはた10いせき・こうはた6いせき・こうはた3いせき							
書名	幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡							
副書名	県道尾駈有戸停車場線改良事業に伴う遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第222集							
編著者名	白鳥 文雄・平山 明寿							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	038青森市大字新城字天田内152-15 TEL0177(88)5701							
発行年月日	西暦1997年3月31日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうはた10 幸畑(10)	青森県上北郡六ヶ所村大字鷹架字道のしたまき、外ノ下817、外	02411	50122	40° 55′ 15″	141° 20′ 25″	19950509	10,000	尾駈有戸停車場線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
こうはた6 幸畑(6)	青森県上北郡六ヶ所村大字鷹架字道のしたまき、外ノ下842、外	02411	50037	40° 54′ 50″	141° 20′ 50″			
こうはた3 幸畑(3)	青森県上北郡六ヶ所村大字鷹架字道のしたまき、外ノ下873、外	02411	50034	40° 54′ 40″	141° 21′ 20″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
幸畑(10)		縄文	なし	縄文土器、石器				
幸畑(6)		縄文	溝状ピット	縄文土器、石器				
幸畑(3)		縄文	溝状ピット	縄文土器、石器				

青森県埋蔵文化財調査報告書 第222集

幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡
— 県道尾駁有戸停車場線改良事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

発行年月日 平成9年3月31日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038 青森市大字新城字天田内152-15

T E L 0177-88-5701

印 刷 所 青森コロニー印刷

〒038 青森市大字幸畑字松元62-3

T E L 0177-38-2021
